

【資料】

ペーター・ヘーベルレ著作一覧及び 関連邦語文献（改訂版）

畑 尻 剛

1. 人とその活動の三和音

ヘーベルレは、その師、コンラート・ヘッセの古希記念論文集（Hans-Peter Schneider/Rudolf Steinberg (Hrsg.) Verfassungsrecht zwischen Wissenschaft und Richterkunst, 1990, Heidelberg S. 107 f.）において、ヘッセの活動を、学者としての活動、教育者としての活動そして実務法曹としての活動という三和音（トリアス）で説明している。ここでもこの響みに倣い、ヘーベルレ自身をトリアスで紹介する¹¹⁾。

(1) 学者としての活動

ペーター・ヘーベルレ（Peter Häberle）は、医学博士フーゴー・ヘーベルレ（Hugo H.）とウルズラ（Ursula H.）の間に、1934年5月13日に、現在のバーデン＝ヴュルテンベルク州の、鉄道模型のメルクリンで有名なゲッピンゲン（Göppingen）に生まれた。チュービンゲン大学、ボン大学、ブライスガウのフライブルク大学、フランスのモンペリエ（Montpellier）大学で法律学を学んだ後、1961年にフライブルク大学のコンラート・ヘッセ（Konrad Hesse）の下でDie Wesensgehaltgarantie des Art. 19 Abs. 2 Grundgesetzにより、法学博士号を取得した。1961年から68年まではフライブルク大学の研究助手、バーデン＝ヴュルテンベルク州での司法修習を経て、1969年にフライブルク大学に対して教授就任資格論文（Öffentliches Interesse als juristisches Problem）を提出した。1969年には、マンハイム大学及びマールブルク大学より、1973年にはボーフム大学より招聘を受ける。1969年から1976年までマールブルク大学の公法及び教会法の正教授、1974年から75年には同大学の法学部長を努める。1976年にはアウグスブルク大学、1980年にはスイスのザンクト・ガーレン（St. Gallen）大学、1981年にはバイロイト大学より招聘を受ける。

現在、バイロイト大学の公法、法哲学及び教会法研究室正教授、ザンクト・ガーレン大学の法哲学の客員教授、ミュンヘンの政治学大学（Hochschule für Politik）の教員の他、ザルツブル

クのヨーロッパ科学・芸術アカデミー会員（Mitglied der Academia Scientiarum et Artium Europaea in Salzburg）、マドリッド大学人権研究所会員（Mitglied des Instituts für Menschenrechte der Universität Carlos III in Madrid）、フィラデルフィア憲法財団ドイツ人会員（‘German Correspondent’ der Philadelphia Constitution Foundation）、ハイデルベルク科学アカデミー協力会員（Korrespondierendes Mitglied der Heidelberger Akademie der Wissenschaften）及び、バイエルン科学アカデミー正会員（Ordentliches Mitglied der bayerischen Akademie der Wissenschaft）である。

なお、1992年10月から1993年9月までベルリン科学アカデミーの客員研究員（Fellow am Wissenschaftskolleg zu Berlin）を勤めた⁽²⁾。また、1994年にはギリシャのテッサロニキ大学（Aristoteles-Universität Thessaloniki）より名誉博士号が授与された。さらに、1996年には、イタリア国法論に対する学問的な貢献が認められ、イタリア共和国大統領よりイタリア功労勲章（Großoffizier des Verdienstordens der Republik Italien）が授与された。外国人の叙勲は非常に稀であり、ローマ大学及びトリノ大学客員教授やミラノ、ナポリなど各地での講演会並びにイタリア憲法についての諸論稿を通じての活動が評価されたものである（Nordbayerischer Kurier, 11. Oktober 1996, S. 15）。さらに、1998年には、マックス・プランク研究所の国際交流賞（Max-Planck-Forschungspreis für internationale Kooperation）を受賞している。

（2）教育者としての活動

「その広範な研究業績にもかかわらず…ヘーベルレは集中的に教育活動に精力を注いでいる。彼は学生に耳をかたむけ、彼らの非常に多くと彼は卒業後もそれぞれの経歴にとって有用な関係を維持している」（Frankfurter Allgemeine Zeitung, 13. Mai 1994 S. 4）。バイロイト大学におけるヘーベルレは抜群の人気の、その名は他学部まで知れ渡っている。そのことは、バイロイト大学で知り合った工学部の学生の次のような言葉にも現れている。「わがバイロイト大学には、二人の世界的に著名な教授がいる。世界一冷たい男と世界一熱い男である。一人は工学部で人工的な低温の世界記録を打ち立てた者、一人は法学部で公法学を熱く講じている」。

このことを雄弁に物語るのが、バイロイト大学法学部と経済学部の学生を対象として行われた学生による教員評価である。「学生は矛先を逆に向けた」といういささかショッキングな見出しでこのことを伝える地元紙によれば、アンケートの結果、圧倒的な支持を得たのはヘーベルレで回答の62%以上、つまり受講した学生の80人以上がヘーベルレの授業のやり方に最高点をつけた。この記事は、他の得点順位の高い教員、低い教員について言及しながら、次のように締めくくっている。「ヘーベルレに対する回答にこう書かれていた、『ヘーベルレとともにあることは一つの僥倖である』と」（Nordbayerischer Kurier, 7/8. März 1992）⁽³⁾。

(3) 実務法曹としての活動

以上二つの活動に比べると、実務法曹としての活動は、師であるヘッセが連邦憲法裁判所裁判官であったのに比して決して目立つものではない。ドイツの大学教授の多くが裁判所への鑑定書を多く手がけるのに対して、ヘーベルレが鑑定書を書かないことで有名なことでも象徴される。しかし、最近では、旧東ドイツ諸州の憲法草案作成への参画をはじめとして、ポーランド、エストニア、リトアニアの各憲法制定に関わるなど、少しずつその活動領域を広げている。しかし、彼は本質的に大学人であって、裁判所の裁判官など常勤の実務法曹への道はあまり考えられない。

〈注〉

- (1) ヘーベルレの経歴に関する邦語文献として、ベルント・ネニンガー・西浦公訳「多様な法学的文献ジャンルの総合としての憲法論—10個のテーゼ」ジュリスト976号（1991年）66頁の栗城壽夫教授の解説、日笠完治編著『現代ドイツ公法学者人名辞典』信山社1991年134頁以下、井上典之編訳『基本権論』信山社180頁以下を参照した。
- (2) ベルリン科学アカデミーは、「学術研究の進歩発展のための機関としてベルリン・ダーレム地区に設置され、毎年国内外の様々な専門からなる著名かつ優秀な10人の研究者を招聘し、学術研究活動に従事させるものであり、ここに招聘されることは、これまでの研究活動に対して与えられる最高の栄誉とされている。ヘーベルレ教授は、パイロイト大学の研究者としては初めてこの栄誉に輝いただけでなく、バンベルクを含めたドイツのオーバーフランケン地方でも二人目という偉業を達成された」（井上典之編訳前掲書181頁）。
- (3) 著者は留学から帰国した直後、城西大学経済学会報15号（1991年）に留学記を書いたが、その中でゼミナールについて述べた部分をここに再録して、ヘーベルレのゼミナールの雰囲気を紹介する。教授の主宰するゼミナールは、週一回月曜日の午後7時から9時30分ごろまで、1ヶ月に1回はその後町へくり出してはなじみの店で深夜まで話を続ける。ゼミには法学部の学生のほかに、助手、卒業生、韓国・フランス・旧東独・東欧・ギリシアなどからの留学生らが参加し、常時、20名ほどである。ゼミ単位の取得をめざす、だいたい3ゼミスターから5ゼミスターの学生は、その学期の前に教授の研究室の前に掲示されるテーマの中から興味のあるものを選択し報告者として登録する。したがって学期開始時には、その学期中のゼミナールの報告者と発表テーマが決まっている。たとえば、90/91年冬学期の報告テーマをみると、「国家と国籍」、「党籍を離脱した連邦議会議員の法的地位」、「新しい東ドイツの各州憲法と憲法草案」、「新旧ハンガリー憲法」、「麻薬所持を理由とする宿屋の営業停止処分」、「交通違反車のレッカー車による移動をめぐる法律問題」などであり、その他、チュービンゲン大学のヴィツム教授が「国家と詩人」と題して特別講演を行い、冬学期最後のゼミでは特別に刑法のゼミと共同で「連邦制」がテーマとなった。

ゼミの議論は、冒頭に報告者の報告についての簡単な質疑応答がなされた後は、ヘーベルレがその日の黒板に書く論点表にそって進められる。出欠はとらず助手がメモした発言者の氏名をもとに議論の内容を先生がチェックする。議論の内容は、法解釈学の領域にとどまらず、歴史、芸術、哲学、神学、地理学など多方面にわたる。たとえば、「麻薬所持を理由とする宿屋の営業停止処分」という連邦行政裁判所の判例がテーマとなったゼミでは、前半のほとんどは麻薬が芸術、特に文学に果たした役割についての積極的評価と消極的評価の論争であり、参加者から次々とその実例が紹介されそれについてまた喧々がくがく…。しかし、2時間30分のゼミが終わってみると本来のテーマである行政判例に関する法律上の論点についてもきちんと議論されており、しかも多方面にわたる議論と本来のテーマとが有機的に結びついているのである。問題を提起し、論点を整理し、参加者の発言に謙虚に耳を傾けながら同時にきめの細かな指導によってその学生の最も良い部分を引き出す。ちょうどそれは、各案員の個性と実力を十分に発揮させながら同時にスケールの大きな統一を保っていく名指揮者にもたとえられよう。ヘーベルレにこのようなゼミの感想を話した折、ヘーベルレはこのゼミの精神的伝統はドイツ公法学の碩学ルドルフ・スメントのゼミナールに連なることを誇らしげに語られた。スメントのゼミナールについては次のような文章を読んだことがある。「スメントがゲッティンゲンにおいて全精力を集中したのはゼミナール活動であって、彼の研究室には多くの学生が集まり、その後多くの人々は著名となった。彼は人々に心に残る印象を与えた。人の言葉に注意深く耳を傾けることのできる素晴らしい能力、ゼミナール参加者をして寛容に自分の意見を述べ批判させ、その議論を展

開するよう鼓舞し、最後に彼がその言葉を熟慮した上で議論をまとめるような方式は、ゼミナール参加者が忘れることはできないであろう…。教えるものと教えられるものについてのフンボルトのような観念が正しく一つの実在であったなら、それはルドルフ・スメントという人物の中にこそ存在していたのである…」(佐藤立夫『現代ドイツ公法学を築いた碩学たち』1982年197頁以下)。この言葉は、そのままヘーベルレにあてはまる。「教えるものと教えられるものについてのフンボルトのような観念は、正しく一つの実在であったなら、それはペーター・ヘーベルレという人物の中にもまた存在していたのである」と。

2. ヘーベルレ著作一覧

本著作一覧は、ヘーベルレ教授より提供された Veröfentlichungen (Stand: Mai 1999) を編年に再構成した上で、若干の情報をこれに加えたものである。

- I 著書 (Selbständige Arbeiten)
- II 論文 (Aufsätze)
- III 判例評釈 (Rechtsprechungsanmerkungen)
- IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)
- V 書評 (Buchbesprechungen)
- VI その他 (Sonstiges)
- VII 編集 (Herausgebortätigkeit)
- VIII 共同編集 (Mitherausgebortätigkeit)
- IX 著作一覧 (Bibliographien über Professor Häberle)

1962年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Die Wesensgehaltgarantie des Art. 19 Abs. 2 Grundgesetz. Zugleich ein Beitrag zum institutionellen Verständnis der Grundrechte und zur Lehre vom Gesetzesvorbehalt, Heidelberg 1962 (Freiburger Dissertation—Freiburger rechts- und staatswissenschaftliche Abhandlungen Bd. 21).

1965年

II 論文 (Aufsätze)

Berufsgerichte als „staatliche“ Gerichte. Gedanken zum Beschluß des BVerfG vom 24. 11. 1964, in: DÖV 1965, S. 369–374 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 347 ff.).

Kirchliche Gewalt als öffentliche und „mittelbar“ staatliche Gewalt, in: ZevKR 11 (1965),

S. 395–403 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 381 ff.).

III 判例評釈 (**Rechtsprechungsanmerkungen**)

Anmerkung zum Beschluß des BVerfG vom 4. 10. 1965, in: DVBl. 1966, S. 216–219 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 391 ff.).

IV 書評論文 (**Besprechungsaufsätze**)

Die Koalitionsvereinbarungen im Lichte des Verfassungsrechts. Zum gleichnamigen Buch von Adolf Schüle. in: ZfP 12 (1965), S. 293–298 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 620 ff. 2. Aufl. 1996, S. 620 ff.).

Allgemeine Staatslehre, Verfassungslehre oder Staatsrechtslehre? Bemerkungen aus Anlaß der 5. Auflage der Allgemeinen Staatslehre von Günther und Erich Küchenhoff (1964), in: ZfP 12 (1965), S. 381–395.

V 書評 (**Buchbesprechungen**)

Dagtolou. Prodromos, Der Private in der Verwaltung als Fachmann und Interessenvertreter, 1964, in: AöR 90 (1965), S. 381–388.

Leisner. Walter, Von der Verfassungsmäßigkeit der Gesetze zur Gesetzmäßigkeit der Verfassung, 1964, in: AöR 90 (1965), S. 117–122.

Abel. Guther, Die Bedeutung der Lehre von den Einrichtungsgarantie für die Auslegung des Bonner Grundgesetzes, 1964, in: DVBl. 1965, S. 788 f.

VI その他 (**Sonstiges**)

Erich Kaufmann zum 85. Geburtstag, in: AöR 90 (1965), S. 375–376 (im Auftrag des AöR).

1966 年

II 論文 (**Aufsätze**)

„Gemeinrechtliche“ Gemeinsamkeiten der Rechtsprechung staatlicher und kirchlicher Gerichte?, in: JZ 1966, S. 384–389 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 363 ff.).

V 書評 (**Buchbesprechungen**)

Hauriou. Maurice, Die Theorie der Institutionen und zwei andere Aufsätze, 1965, in: DVBl. 1966, S. 120 f.

Luhmann. Niklas, Grundrechte als Institution, 1965, in: JZ 1966, S. 454 f.

Böckenförde. Christoph, Die sogenannte Nichtigkeit verfassungswidriger Gesetze, 1966,

in: DÖV 1966, S. 660–662.

VI その他 (Sonstiges)

Hans Kelsen zum 85. Geburtstag, in: AöR 91 (1966), S. 560 (im Auftrag des AöR).

1967年

II 論文 (Aufsätze)

Unmittelbare staatliche Parteifinanzierung unter dem Grundgesetz—BVerfGE 20, 56, in: JuS 1967, S. 64–74 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, 32 S. 173 ff.).

„Fiskalische“ Interessen als Öffentliche Interessen i. S. des, 80 Abs. 2 Nr. 4 VWGO?, in: DVBl 1967, S. 220–225 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 330 ff.).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Zur gegenwärtigen Diskussion um das Problem der Souveränität. Zugleich Besprechung von Werner von Simson, Die Souveränität im rechtlichen Verständnis der Gegenwart, 1965, in: AöR 92 (1967), S. 259–287 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 364 ff. 2. Aufl. 1996, S. 364 ff.).

1969年

II 論文 (Aufsätze)

Exzessive Glaubenswerbung in Sonderstatusverhältnissen, in: JuS 1969, S. 265–272 (Freiburger Probevortrag) (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 589 ff.).

„Landesbrauch“ oder parlamentarisches Regierungssystem?, in: JZ 1969, S. 613–617 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung 1979, S. 200 ff.).

III 判例評釈 (Rechtsprechungsanmerkungen)

Grenzen aktiver Glaubensfreiheit. Zur Lumpensammlerentscheidung des BVerfG, in: DÖV 1969, S. 385–388 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 125 ff.).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Öffentlichkeit und Verfassung, Bemerkungen zur 3. Auflage von Jürgen Habermas, Strukturwandel der Öffentlichkeit, 1968, in: ZfP 16 (1969), S. 273–287 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 225 ff. 2. Aufl. 1996, S. 225 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Weber. Hermann, Die Religionsgemeinschaften als Körperschaften des öffentlichen Rechts im System des Grundgesetzes, 1966, in: AöR 94 (1969), S. 643–648.

Steiner. Udo, Verfassunggebung und verfassunggebende Gewalt des Volkes, 1966, in: AöR 94 (1969), S. 479-488.

Klein. Hans H., Bundesverfassungsgericht und Staatsräson, Über Grenzen normativer Gebundenheit des Bundesverfassungsgerichts, 1968, in: DÖV 1969, S. 150 f. 32 S. 173 ff.

Denninger. Erhard, Rechtsperson und Solidarität, Ein Beispiel zur Phänomenologie des Rechtsstaates unter besondere Berücksichtigung der Sozialtheorie Max Schelers, 1967, in: JZ 1969, S. 306 f.

Hesse. Ernst, Die Bindung des Gesetzgebers an das Grundrecht des Art. 21 GG bei der Verwirklichung einer „verfassungsmäßigen Ordnung“ 1968, in: DÖV 1969, S. 363 f.

Wohl der Allgemeinheit und öffentliche Interessen, Schriftenreihe der Hochschule Speyer, Band 39, 1968, in: DÖV 1969, S. 437.

Martens. Wolfgang, Öffentlich als Rechtsbegriff, 1969, in: DÖV 1969, S. 653.

1970年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Öffentliches Interesse als juristisches Problem, Königstein/Ts. 1970 (Freiburger Habilitationsschrift).

II 論文 (Aufsätze)

„Gemeinwohlludikatur“ und Bundesverfassungsgericht, in: AöR 95 (1970), S. 86-125 und S. 260-298 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 235 ff. mit Nachtrag, S. 308-329).

Struktur und Funktion der Öffentlichkeit im demokratischen Staat, in: Politische Bildung, 1970, Heft. 3, S. 3-33 (auch in: Die Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 126 ff.).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Das Gemeinwohl als „Schrankenschanke“? Zu Karl August Bettermann, Grenzen der Grundrechte, 1968, in: AöR 95 (1970), S. 617-625.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Roellecke. Gerd, Der Begriff des positiven Gesetzes und das Grundgesetz, 1969, in: JZ 1970, S. 110 f.

Loewenstein. Karl, Verfassungslehre, 2. Aufl. 1969, in: JZ 1970, S. 196 f.

Preuß. Ulrich K., Zum staatsrechtlich Begriff des Öffentlichen 1969 in AöR 95, (1970), S. 651-659.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 28 (1970), S. 110, 111 f., 116 f., 259-261.

Buchanzeige von Hanswerner Müller, Handbuch der Gesetzgebungstechnik, 2. Aufl. 1968, in: AöR 95 (1970), S. 90 f.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 16 (1967). in: AöR 95 (1970), S. 676-680.

Der wählerische Zeitungsverleger (Der praktische Fall: Öffentliches Recht), zusammen mit D. H. Scheuing, in: JuS 1970, S. 524-529 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 153 ff.).

1971 年

II 論文 (Aufsätze)

Die Abhörentscheidung des Bundesverfassungsgerichts vom 15. 12. 1970, Analyse und Kritik des Urteils sowie des Minderheitsvotums vom 4. 1. 1971, in: JZ 1971, 145-156 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 91 ff.).

Formen und Grenzen normierender Kraft der Öffentlichkeit in gemeinwohltigen Fragen der Praxis, in: T. Würtenberger (Hrsg.), Rechtsphilosophie und Rechtspraxis, 1971, S. 36-62 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 480 ff. 2. Aufl. 1996, S. 480 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Schulte. Hans, Eigentum und öffentliches Interesse, 1970, in: DÖV 1971, S. 178 f.

Mols. Manfred, Allgemeine Staatslehre oder politische Theorie?, 1969, in: JZ 1971, S. 270-272.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 29 (1971), S. 98f., 125 f.

1972 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Die Wesensgehaltgarantie des Art. 19 Abs. 2 Grundgesetz. Zugleich ein Beitrag zum institutionellen Verständnis der Grundrechte und zur Lehre vom Gesetzesvorbehalt, 2. Aufl., Heidelberg 1972.

II 論文 (Aufsätze)

Grundrechte im Leistungsstaat, VVDStRL 30 (1972), S. 43-141 (auch in: Die Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 163ff.; Teilabdruck der Leitsätze u. a. in: K. Hernekamp (Hrsg.), Soziale Grundrechte, Aktuelle Dokumente, 1979.

„Leistungsrecht“ im sozialen Rechtsstaat, in: Recht und Staat, FS für G. Kuchenhoff, 1972, S. 453-474 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 445 ff. 2. Aufl. 1996, S. 445 ff.).

Berufs „ständische“ Satzungsautonomie und staatliche Gesetzgebung. Zur Facharztentscheidung des BVerfG vom 9. 5. 1972, in: DVBl. 1972, S. 909-913 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 138 ff.).

Das Bundesverfassungsgericht im Leistungsstaat. Die Numerus-clausus-Entscheidung vom 18. 7. 1972, in: DÖV 1972, S. 729-740 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 57 ff.).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Retrospektive Staats (rechts) lehre oder realistische „Gesellschaftslehre“? zu Ernst Forsthoff, Der Staat der Industriegesellschaft, 1971, in: ZHR 136 (1972), S. 425-446, (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 246 ff. 2. Aufl. 1996, S. 246 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Göldner. Detlef, Verfassungsprinzip und Privatrechtsnorm in der verfassungskonformen Auslegung und Rechtsfortbildung, 1969, in: DÖV 1972, S. 580 f.

Eser. Albin, Gesellschaftsgerichte in der Strafrechtspflege, 1970, in: JZ 1972, S. 376.

Brauns. Hans-Jochen, Staatsleistungen an die Kirchen und ihre Ablösung, 1970, in: AöR 97 (1972), S. 325-328.

Dombois. Hans, Hierarchie, 1971, in: ZevKR 17 (1972), S. 202-204.

Kloepfer. Michael, Grundrechte als Entstehenssicherung und Bestandsschutz, 1970, in: JZ 1972, S. 415 f.

Gallwas. Hans-Ullrich, Faktische Beeinträchtigungen im Bereich der Grundrechte, 1970, in: DÖV 1972, S. 324 f.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 30 (1972), S. 149 f., 167, 185-190.

Buchanzeige von: Festgabe für Theodor Maunz, hrsg. von H. Spanner, P. Lerche, H.

Zacher, P. Badura, A. v. Campen, 1971, in: AöR 97 (1972), S. 479–483.

1973 年

Ⅲ 判例評釈 (Rechtsprechungsanmerkungen)

Die Eigenständigkeit des Verfassungsprozeßrechts. Zum Beschluß des BVerfG vom 29. 5. 1973, in: JZ 1973, S. 451–455 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 405 ff.).

Ⅳ 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Allgemeine Staatslehre, demokratische Verfassungslehre oder Staatsrechtslehre? Zu Roman Herzog, Allgemeine Staatslehre, 1971, in: AöR 98 (1973), S. 119–134 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 271 ff.).

Effizienz und Verfassung. Zu Walter Leisner, Effizienz als Rechtsprinzip, 1971, in: AöR 98 (1973), S. 625–635 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 290 ff. 2. Aufl. 1996, S. 290 ff.).

Ⅴ 書評 (Buchbesprechungen)

Schmid, Richard, Unser aller Grundgesetz?, 1971, in: JZ 1973, S. 389.

Roth-Stielow, Klaus, Grundgesetz und Rechtsanwendung, 1972, in: JZ 1973, S. 431 f.

Burmeister, Joachim, Vom staatsbegrenzenden Grundrechtsverständnis zum Grundrechtsschutz für Staatsfunktionen, 1971, in: DÖV 1973, S. 175 f.

Hansen, Hans-Jürgen, Fachliche Weisung und materielles Gesetz, 1971, in: DÖV 1973, S. 213.

Haller, Walter, Supreme Court und Politik in den USA, Fragen der Justiziabilität in der hochstrichterlichen Rechtsprechung, 1972, in: DVBl. 1973, S. 388 f.

Stahl, Klaus, Die Sicherung der Grundfreiheiten im öffentlichen Recht der Fünften Französischen Republik, 1970, in: Jahrbuch für Internationales Recht 16 (1973), S. 563–565.

Schlaich, Klaus, Neutralität als verfassungsrechtliches Prinzip, 1972, in: ZevKR 18 (1973), S. 420–429 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 608 ff. 2. Aufl. 1996, S. 608 ff.).

Ⅵ その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 31 (1973), S. 289.

Buchanzeige von Burckhardt, Walter, Aufsätze und Vorträge 1910–1938, 1970, in: AöR 98

(1973), S. 309.

Diskussionsbeiträge in: Bundesverfassungsgericht im dritten Jahrzehnt, Symposion zu Ehren von E. Friesenhahn, hrsg. von J. A. Frowein, H. Meyer u. P. Schneider, 1973, S. 24 f., 54 f., 79 f.

Glückwunsch Ulrich Scheuner zum 24. 12. 1973, in: JZ 1973, S. 799.

VIII 共同編集 (**Mitherausgebertätigkeit**)

Die Öffentliche Verwaltung, seit 1973.

1974 年

II 論文 (**Aufsätze**)

Zeit und Verfassung, in: ZfP 21 (1974), S. 111–137, wiederabgedruckt in: R. Dreier/F. Schwegmann (Hrsg.), Probleme der Verfassungsinterpretation, 1976, S. 293 ff. (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 59 ff. 2. Aufl. 1996, S. 59 ff.).

Verfassungstheorie ohne Naturrecht, in: AöR 99 (1974) S. 437–463, wiederabgedruckt in: M. Friedrich (Hrsg.), Verfassung, 1978, S. 418 ff. (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 93 ff. 2. Aufl. 1996, S. 93 ff.).

IV 書評論文 (**Besprechungsaufsätze**)

Die Grundrechte im demokratischen Staat. Zu Hans H. Klein, Die Grundrechte im demokratischen Staat, 1972, in: DÖV 1974, S. 343–345 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 579 ff. 2. Aufl. 1996, S. 579 ff.).

V 書評 (**Buchbesprechungen**)

Listl. Joseph, Das Grundrecht der Religionsfreiheit in der Rechtsprechung der Gerichte der Bundesrepublik Deutschland, 1971, in: ZevKR 19 (1974), S. 206–216.

Füsslein. Rudolf Werner, Mensch und Staat, 1973, in: JZ 1974, S. 303 f.

Bull. Hans Peter, Die Staatsaufgaben nach dem Grundgesetz, 1973, in: DÖV 1974, S. 393 f.

Goose. Peter Ernst, Die Normenkontrolle durch den französischen Conseil Constitutionnel, 1973, in: AöR 99 (1974), S. 347–349.

Solte. Ernst-Lüder, Theologie an der Universität, 1972, in: ZRG Kan. Abt. 60 (1974), S. 473–477.

Goerlich. Helmut, Wertordnung und Grundgesetz, 1973, in: JR 1974, S. 487 f.

Zippelius. Reinhold, Allgemeine Staatslehre, 4. Aufl. 1973, in: NJW 1974, S. 1548 f.

Zippelius. Reinhold, Das Wesen des Rechts, 1973, in: NJW 1974, S. 1694 f. 38.

VI その他 (Sonstiges)

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 19, (1970). in: AöR 99 (1974), S. 520 f., Bd. 20 (1971), in: AöR 99 (1974), S. 522 f.

1975年

II 論文 (Aufsätze)

Die offene Gesellschaft der Verfassungsinterpreten, in: JZ 1975, S. 297–305 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 155 ff. 2. Aufl. 1996, S. 155 ff., sowie in: Die Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 79 ff.); in koreanischer Übersetzung, in: Hee-Yol Kay (Hrsg.), Verfassungsinterpretation. Ausgewählte Schriften, 1992, S. 217–251; in polnischer Übersetzung, in: Samorzad Terytorialny 10/1992, S. 41–53 und in: Konstytucja: Transformacja, Piotr Kaczanowski (Hrsg.), Warszawa 1995, S. 27–49; in spanischer Übersetzung; in portugiesischer Übersetzung als selbständiger Band.

Lebende Verwaltung trotz überlebter Verfassung? Zum wissenschaftlichen Werk von E. Forsthoff, in: JZ 1975, S. 685–689.

Analog zum Grundgesetz, Grenzen kirchlicher Verfassung, in: Lutherische Monatshefte 12/1975, S. 645.

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Verfassungstheorie zwischen Dialektiv und kritischem Rationalismus. Zu Dieter Suhr, Bewußtseinsverfassung und Gesellschaftsverfassung, 1975, in: Rechtstheorie 7 (1976), S. 77–93 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 303 ff. 2. Aufl. 1996, S. 303 ff.).

Zum Staatsdenken Ernst Forsthoffs. in: ZSR 95 (1976), S. 477–489 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 396 ff. 2. Aufl. 1996, S. 396 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Schelsky. Helmut, Systemüberwindung, Demokratisierung, Gewaltenteilung, 1973, in: AöR 100 (1975), S. 645–651 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 473 ff. 2. Aufl. 1996, S. 473 ff.).

Rinken. Alfred, Das öffentliche als verfassungstheoretisches Problem, 1971, in: JZ 1975, S. 38 f.

Wehdeking. Thomas Pieter, Die Kirchengutsgarantien und die Bestimmungen über Leistungen der öffentlichen Hand an die Religionsgesellschaften im Verfassungsrecht des Bundes und der Länder, 1971, in: ZevKR 20 (1975), S. 430-438.

Hartwich. Hans-Hermann, Sozialstaatspostulat und gesellschaftlicher status quo, 1970, in: AöR 100 (1975), S. 333-338 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 467 ff. 2. Aufl. 1996, S. 467 ff.).

Dombois. Hans, Recht und Gnade Band II, 1974, in: Lutherische Monatshefte 12/1975, S. 688 f.

Handbuch des Staatskirchenrechts der Bundesrepublik Deutschland, 1. Teilband 1974, in: DÖV 1975, S. 504 f.

Handbuch des Staatskirchenrechts der Bundesrepublik Deutschland, 2. Teilband 1975, in: DÖV 1975, S. 757-759.

Grimm. Dieter (Hrsg.), Rechtswissenschaft und Nachbarwissenschaften, Band 1, 1973, in: AöR 100 (1975), S. 671-674.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 33 (1975), S. 134-136, 306 f.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 21 (1972), in: AöR 100 (1975), S. 181 f.; Bd. 22 (1973), in: AöR 100 (1975), S. 183 ff.

Buchanzeige von: Der Staat als Aufgabe, Gedenkschrift für Nax Imboden, hrsg. von P. Saladin und L. Wildhaber, 1972, in: AöR 100 (1975), S. 152-157.

Buchanzeige von: Zuck. Rüdiger, Verfassungsbeschwerde und einstweilige Anordnung gem. §§ 90, 32 BVerfGG, 1973, in: AöR 100 (1975), S. 510 f.

Buchanzeige von: Beutler. Bengt, Das Staatsbild in den Länderverfassungen nach 1945, 1973, in: AöR 100 (1975), S. 520 f.

Buchanzeige von: Festschrift für Karl Loewenstein, hrsg. von H. S. Commager, G. Doeker, E. Fraenkel, F. Hermes, W. C. Havard, T. Maunz, 1971, in: AöR 100 (1975), S. 521-523.

Nachruf auf Rudolf Smend, in: NJW 1975, S. 1874 f. (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 685 ff. 2. Aufl. 1996, S. 685 ff.).

VIII 共同編集 (Mitherausgebertätigkeit)

Jurstenzeitung, seit 1975 („Ständiger Mitarbeiter“).

1976年

II 論文 (Aufsätze)

„Staatskirchenrecht“ als Religionsrecht der verfaßten Gesellschaft, in: DÖV 1976, S. 73–80, wiederabgedruckt in: P. Mikat (Hrsg.), Kirche und Staat in der neueren Entwicklung, 1980, S. 452 ff. (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 40–329 ff.).

Freiheit, Gleichheit und Öffentlichkeit des Abgeordnetenstatus, in: NJW 1976, S. 537–543 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung 1979, S. 215 ff. 2. Aufl. 1996, S. 215 ff.).

Verfassungsprozeßrecht als konkretisiertes Verfassungsrecht, in: JZ 1976, S. 377–384 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 631 ff. 2. Aufl. 1996, S. 631 ff.).

Grundprobleme der Verfassungsgerichtsbarkeit, in: P. Häberle (Hrsg.), Verfassungsgerichtsbarkeit, 1976, S. 1–45, in japanischer Übersetzung, in: Jōsai Keizaigakkaishi (Jōsai Journal of Economics), Vol. 25, Nr. 2/3 (1992), S. 125–146.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Stolleis. Michael, Gemeinwohlformeln im nationalsozialistischen Recht, 1974, in: AöR 101 (1976), S. 292–297 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 557 ff. 2. Aufl. 1996, S. 557 ff.).

Heller. Hermann, Gesammelte Schriften, 1971, in: AöR 101 (1976), S. 105–108.

Soell. Hermann, Das Ermessen der Eingriffsverwaltung, 1973, in: JZ 1967, S. 191 f.

Krebs. Walter, Vorbehalt des Gesetzes und Grundrechte, 1975, in: DÖV 1976, S. 538.

Fleiner. Thomas, Recht und Gerechtigkeit, 1975, in: ZSR 95 (1976), S. 207–209.

Verfassung, Verwaltung, Finanzkontrolle, FS für Hans Schafer, hrsg. von E. Schiffer und H. Karehnke, 1975, in: AöR 101 (1976), S. 469–473.

Lipphardt. Hans-Rudolf, Die Gleichheit der politischen Parteien vor der öffentlichen Gewalt, 1975, in: DVBl. 1976, S. 278 f.

Säcker. Horst, Das Bundesverfassungsgericht, 1975, in: DÖV 1976, S. 430.

Heusinger. Bruno, Rechtsfindung und Rechtsfortbildung im Spiegel richterlicher Erfah-

rung, 1975, in: DVBl. 1976, S. 551 f.

Schmidt-Eichstaedt. Gerd, Kirche als Körperschaft des öffentlichen Rechts?, 1976, in: DVBl. 1976, S. 648 f.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 34 (1976), S. 109 f., 136, 307.

Buchanzeige von: Hoenisch. Hans J., Planification. Recht zwischen Plan und Freiheit, 1974, in: AöR 101 (1976), S. 484.

Buchanzeige von: Schröder. Meinhard, Die Neuordnung des französischen Staatsgebiets, 1974, in: AöR 101 (1976), S. 486 f.

VII 編集 (Herausgebertätigkeit)

Verfassungsgerichtsbarkeit, 1976: mit Originalbeitrag: Grundprobleme der Verfassungsgerichtsbarkeit, S. 1-45.

1977年

II 論文 (Aufsätze)

Demokratische Verfassungstheorie im Lichte des Möglichkeitsdenkens, in: AöR 102 (1977), S. 27-68 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 17 ff. 2. Aufl. 1996, S. 17 ff., sowie in: Die Verfassung des Pluralismus, 1980, S. I ff.).

Öffentlichkeitsarbeit der Regierung zwischen Parteien- und Bürgerdemokratie in: JZ 1977, S. 361-371 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 526 ff. 2. Aufl. 1996, S. 526 ff.).

Verfassungsprinzipien „im“ Verwaltungsverfahrensgesetz, in: W. Schmitt Glaeser (Hrsg.), Verwaltungsverfahren, 1977, S. 47-93.

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Das Mehrheitsprinzip als Strukturelement der freiheitlich-demokratischen Grundordnung, Besprechung von Ulrich Scheuner. Das Mehrheitsprinzip in der Demokratie, 1973, in: JZ 1977, S. 241-245 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 565 ff. 2. Aufl. 1996, S. 565 ff.).

Positivismus als Historismus? Zu Helmut Ridder. Die soziale Ordnung des Grundgesetzes, 1975, in: DÖV 1977, S. 90-92 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 322 ff. 2. Aufl. 1996, S. 322 ff.).

Staatslehre als Verfassungsgeschichte, Besprechung von Martin Kriele. Einführung in die Staatslehre, 1975, in: AöR 102 (1977), S. 284–297 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 348 ff. 2. Aufl. 1996, S. 348 ff.).

Auf dem Weg zum allgemeinen Verwaltungsrecht. Zugleich Besprechung von H. U. Erichsen und W. Martens (Hrsg.), Allgemeines Verwaltungsrecht, 2. Aufl. 1977, in: BayVBl. 1977, S. 745–752 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 656 ff. 2. Aufl. 1996, S. 656 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Frowein. Jochen Abr., Zur völkerrechtlichen und verfassungspolitischen Gewährleistung der Aussperrung, 1976, in: JZ 1977, S. 110 f.

Hammer. Ekhardt, Möglichkeiten einer Wiedereingliederung verfassungswidriger Parteien, 1976, in: ZfP 24 (1977), S. 202 f.

Steinwedel. Ulrich, „Spezifisches Verfassungsrecht“ und „einfaches Recht“, 1976, in: DÖV 1977, S. 454 f.

Henkel. Joachim, Die Auswahl der Parlamentsbewerber, 1976, in: ZRP 1977, S. 150 f.

Weber-Fas. Rudolf, Rechtsstaat und Grundgesetz, 1977, in: DVBl. 1977, S. 836.

Arndt. Adolf, Gesammelte juristische Schriften, 1976, in: DÖV 1977, S. 417 f.

Ronellenfisch. Michael, Die Mischverwaltung im Bundesstaat, 1975, in: DVBl. 1977, S. 869 f.

Lipphardt. Hanns-Rudolf, Die kontingentierte Debatte, 1976, in: ZRP 1977, S. 311 f.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 35 (1977), S. 121–123, 306 f.

Buchanzeige von: Miliband. Ralph, Der Staat in der kapitalistischen Gesellschaft, 1972, in: VSWG 64 (1977), S. 87.

Das schöpferische Nein als Ja zur Zukunft. Der Jurist und Politiker Adolf Arndt: Fürsprecher und Verfechter einer „wertgebundenen Toleranz“, in: FAZ vom 24. 5. 1977, S. 27 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 688 ff. 2. Aufl. 1996, S. 688 ff.).

1978年**I 著書 (Selbständige Arbeiten)**

Verfassung als öffentlicher Prozeß, Materialien zu einer Verfassungstheorie der offenen Gesellschaft, Berlin, 1978, 723 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 353).

II 論文 (Aufsätze)

Verfassungsinterpretation und Verfassungsgebung, in: ZSR 119 (1978), S. 1-49 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 182 ff.).

Der kooperative Verfassungsstaat, in: FS für Schelsky, 1978, S. 141-177 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 407 ff. 2. Aufl. 1996, S. 407 ff., sowie in: Die Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 287 ff.).

Verfassungsinterpretation als öffentlicher Prozeß — ein Pluralismuskonzept, in: P. Häberle, Verfassung als öffentlicher Prozeß, 1978, S. 121-152 (auch in: Die Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 45 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Moench. Christoph, Verfassungswidriges Gesetz und Normenkontrolle, 1977, in: DVBl. 1978, S. 653.

Quaritsch. Helmut (Hrsg.), Die Selbstdarstellung des Staates, 1977; Quaritsch. Helmut, Probleme der Selbstdarstellung des Staates, 1977, in: DVBl. 1978, S. 512 f.

Degenhart. Christoph, Systemgerechtigkeit als Verfassungspostulat, 1976, in: BayVBl. 1978, S. 63.

Gerhardt. Michael, Das Koalitionsgesetz, 1977, in: DVBl. 1978, S. 121 f.

Göldner. Detlef, Integration und Pluralismus im demokratischen Rechtsstaat, 1977, in: DÖV 1978, S. 257 f.

Hoffmann-Riem. Wolfgang (Hrsg.), Sozialwissenschaften im Studium des Rechts, Band II, Verfassungs- und Verwaltungsrecht, 1977, in: NJW 1978, S. 2021 f.

Willke. Helmut, Stand und Kritik der neueren Grundrechtstheorie, 1975, in: JZ 1978, S. 79.

Mantl. Wolfgang, Repräsentation und Identität, 1975, in: DÖV 1978, S. 531 f.

Zippelius. Reinhold, Allgemeine Staatslehre, 6. Aufl. 1978, in: DÖV 1978, S. 530.

Bull. Hans Peter, Die Staatsaufgaben nach dem Grundgesetz, 3. Aufl. 1977, in: DÖV 1978,

S. 532 f.

Kremendahl, Hans, Pluralismustheorie in Deutschland, 1977, in: FAZ vom 7. 7 1978, S. 6.

von Arnim, Hans Herbert, Gemeinwohl und Gruppeninteressen, Die Durchsetzungsschwäche allgemeiner Interessen in der pluralistischen Demokratie, in: FAZ vom 6. 12. 1978, S. 11, sowie: AöR 103 (1978), S. 607–613.

Wege, Joachim, Positives Recht und sozialer Wandel im demokratischen und sozialen Rechtsstaat, in: Jahrbuch für internationales Recht 21 (1978), S. 572–575.

Tradition und Fortschritt im Recht. Festschrift zum 500-jährigen Bestehen der Tübinger Juristenfakultät, in: BayVB1. 1978, S. 581 f.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 36 (1978), S. 129 f., 163, 356–358.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 23 (1974), in: AöR 103 (1978), S. 105 f.; Bd. 24 (1975), in: AöR 103 (1978), S. 281–283; Bd. 25 (1976), in: AöR 103 (1978), S. 283–285.

Diskussionsbeiträge in: Wirtschaft und Wissenschaft, Heft 4/1978, S. 26 f. („Freiheitsräume im Sozialrecht“).

1979年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, Königstein/Ts. 1979, 476 S. (Athenäum Rechtswissenschaft).

Kulturpolitik in der Stadt—ein Verfassungsauftrag. Heidelberg, Hamburg, Karlsruhe, 1979, VIII, 68 S. (Heiderberger Forum 6).

II 論文 (Aufsätze)

Verfassungsgerichtsbarkeit als politische Kraft, in: J. Becker (Hrsg.), Dreißig Jahre Bundesrepublik—Tradition und Wandel, 1979, S. 53–76 (auch in: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 427 ff., sowie in: Verfassungsgerichtsbarkeit zwischen Politik und Rechtswissenschaft, 1980, S. 55 ff.).

Das Verwaltungsrechtverhältnis—eine Problemskizze, in: Das Sozialrechtsverhältnis. 1. Sozialrechtslehrertagung Kassel, 16. Mai 1979, o. O. o. J. (Schriftenreihe des Deutschen Sozialgerichtsverbandes, Band XVIII), S. 60–112 (auch in: Die Verfassung des Pluralismus,

1980, S. 248 ff.).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Mußgnung. Reinhard, Der Haushaltsplan als Gesetz, 1976, in: ZSR 98 (1979), S. 101–105.

Scheuner. Ulrich, Staatstheorie und Staatsrecht, in: NJW 1979, S. 696.

Bachof. Otto, Wege zum Rechtsstaat, Ausgewählte Studien zum öffentlichen Recht, mit einem bibliographischen Anhang, in: BayVBl. 1979, S. 349 f.

Weber-Fas. Rudolf (Hrsg.): Der Staat, Dokumente des Staatsdenkens von der Antike bis zur Gegenwart, 1977, in: ZfP 26 (1979), S. 207 f.

Merten. Detlef, Rechtsstaatlichkeit und Gnade, 1978, in: DÖV 1979, S. 725 f.

Schreckenberger. Waldemar, Rhetorische Semiotik, 1978, in: DÖV 1979, S. 827 f. (auch in: Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 106 ff.).

FS für Walter Mallmann, hrsg. von O. Triffterer, F. v. Zezschwitz im Auftrag der Giesse-
ner Kollegen, 1979, in: NJW 1979, S. 2293 f.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 37 (1979), S. 126–128, 288 f.

Bibliographie Konrad Hesse, hrsg. von Peter Häberle und Alexander Hollerbach, 1979.

Diskussionsbeitrag, in: K. Vogel (Hrsg.), Grundrechtsverständnis und Normenkontrolle.
Kolloquium für Hans Spanner, 1979, S. 63–66.

Nachruf auf Walter Hamel, in: AöR 104 (1979), S. 500 f.

1980年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Die Verfassung des Pluralismus, Studien zur Verfassungstheorie der offenen Gesellschaft,
Königstein/Ts. 1980, 323 S. (Athenaum-Taschenbücher, 622: Rechtswissenschaft).

Verfassungsgerichtsbarkeit zwischen Politik und Rechtswissenschaft. Recht aus Rezen-
sionen/Verfassungsgerichtsbarkeit als politische Kraft. Zwei Studien. Königstein/Ts. 1980,
88 S. (Auszug aus: Kommentierte Verfassungsrechtsprechung, 1979, S. 1 ff. und 427 ff.).

Kulturverfassungsrecht im Bundesstaat, Wien 1980, 82S. (Schriftenreihe des Instituts für

Föderalismusforschung, Bd. 16).

II 論文 (Aufsätze)

Menschenwürde und Verfassung am Beispiel von Art. 2 Abs. I Verfassung Griechenlands 1975, in: Rechtstheorie 11 (1980), S. 389-426 und in griechischer Übersetzung (1982), in: Zeitschrift „To Syntagma“ Jahrgang 1982 (Bd. 8), S. 201 ff.

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Erziehungsziele im Verfassungsstaat, Besprechungsaufsatz zu Hans-Ulrich Evers. Die Befugnis des Staates zur Festlegung von Erziehungszielen in der pluralistischen Gesellschaft, 1979, in: RdJB 28 (1980), S. 368-376.

Festschriften im Kraftfeld ihrer Adressaten, Besprechungsaufsatz zu U. Hafelin/W. Haller/D. Schindler (Hrsg.), Menschenrechte, Föderalismus, Demokratie, FS zum 70. Geburtstag von Werner Kagi, 1979, in: AöR 105 (1980), S. 652-657.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Schroeder. Friedrich-Christian, Wandlungen der sowjetischen Staatstheorie, 1979, in: FAZ vom 4. 2. 1980, S. 9.

Siegrist. Ulrich K., Die Schweizer Verfassungsordnung als Grundlage und Schranke des interkantonalen kooperativen Föderalismus, Band I, 1976, Band II, 1978, in: DVB1. 1980, S. 576.

Storost. Ulrich, Staat und Verfassung bei Ernst Forsthoff, 1979, in: DÖV 1980, S. 185 f.

Rhinow. René A., Rechtssetzung und Methodik, 1979, in: DÖV 1980, S. 534 f.

Schmitt Glaeser. Walter, Kabelkommunikation und Verfassung, 1979, in: BayVBl. 1980, S. 383 f.

Wischermann. Norbert, Rechtskraft und Bindungswirkung verfassungsrichterlicher Entscheidungen, 1979, in: NJW 1980, S. 1734 f.

Robbers. Gerhard, Gerechtigkeit als Rechtsprinzip. Über den Begriff des Gerechtigkeit in der Rechtsprechung des Bundesverfassungsgerichts, 1980, in: JZ 1980, S. 541 f.

Magiera. Siegfried, Parlament und Staatsleitung in der Verfassungsordnung des Grundgesetzes, 1979, in: NJW 1980, S. 1941.

Rengeling. Hans-Werner, Rechtsgrundsätze beim Verwaltungsvollzug des europäischen Gemeinschaftsrechts, 1977, in: BayVBl. 1980, S. 604-606.

Doehring, Karl, Sozialstaat und freiheitlich-demokratische Grundordnung, 1978, in: DÖV 1980, S. 928-930.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 38 (1980), S. 114-117, 340 f., 379.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 26 (1977), in: AöR 105 (1980), S. 154-158; Bd. 27 (1978), in: AöR 105 (1980), S. 158-161.

Staatsrechtslehre im Verfassungsleben, am Beispiel Günter Dürigs—Ein Geburtstagsblatt—Privatdruck 1980 (auch in: Verfassung des Pluralismus, 1980, S. 110 ff., wiederabgedruckt in: G. Dürig, Gesammelte Schriften, 1984, S. 9 ff.).

Das Theorie/Praxis-Problem im Öffentlichen Recht aus der Sicht eines Universitätslehrers, in: Augsburger Juristenausbildung, 1980, S. 95-102.

Buchanzeige von: Klecatsky, Hans R., Das Bundesverfassungsgesetz in der Fassung vom 1. 5. 1977, 1977, in: AöR 105 (1980), S. 334 f.

Buchanzeige von: Gygi, Fritz, Bundesverwaltungsrechtspflege. Grundriß und Textausgabe mit Anmerkungen, 1979, in: AöR 105 (1980), S. 335.

Buchanzeige von: Kaltenbrunner, Gerd-Klaus (Hrsg.), Auf dem Weg zum Richterstaat, 1979, in: FAZ vom 27. 9. 1980. 1981.

VIII 共同編集 (Mitherausgebertätigkeit)

Archiv des öffentlichen Rechts, seit 1980.

1981 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Klassikertexte im Verfassungsleben, Berlin 1981, 62 S. (Schriftenreihe der Juristischen Gesellschaft Berlin, 67).

Erziehungsziele und Orientierungswerte im Verfassungsstaat, Freiburg i. Br. /München, 1981 (auch in: Wertepluralismus und Wertewandel heute, hrsg. von J. Becker u. a., 1982, S. 75 ff.).

II 論文 (Aufsätze)

Verfassungsprinzipien als Erziehungsziele, in: Recht als Prozeß und Gefüge, FS für 48 Hans Huber, 1981, S. 211-239 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungs-

staates, 1992, S. 321 ff.).

Kulturverfassungsrecht auf Kommunalen, Regionalen, Bundesstaatlichen und Europäischen Ebene in: South African Yearbook of International Law, Volume 7, 1981, S. 67-82 (mit Summary auf Englisch).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Verbände als Gegenstand demokratischer Verfassungslehre, Besprechung von G. Teubner, Organisationsdemokratie und Verbandsverfassung, 1978; K. -H. Gießen, Die Gewerkschaften im Prozeß der Volks- und Staatswillensbildung, 1975; H. Leßmann, Die öffentlichen Aufgaben und Funktionen privatrechtlicher Wirtschaftsverbände, 1976; K. Schelter, Demokratisierung der Verbände?, 1976; H. J. Schröder, Gesetzgebung und Verbände, 1976, in: ZHR 145 (1981), S. 473-503.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Eichenberger. Kurt, Der Staat der Gegenwart, 1980, in: NJW 1981, S. 567.

Murswiek. Dietrich, Die verfassunggebende Gewalt nach dem Grundgesetz für die Bundesrepublik Deutschland, 1978, in: AöR 106 (1981), S. 149-155.

Auf dem Wege zur Menschenwürde und Gerechtigkeit, FS für Hans R. Klecatsky, hrsg. von L. Adamovich und P. Perthaler, 1980, in: AöR 106 (1981), S. 655-659.

Das österreichische Bundesverfassungsgesetz und seine Entwicklung, hrsg. von H. Schambeck, 1980, in: BayVBl. 1981, S. 350 f.

Müller. Georg, Inhalt und Formen der Rechtssetzung als Problem der demokratischen Kompetenzordnung, 1979, in: DÖV 1981, S. 550 f.

V. Olshausen. Henning, Landesverfassungsbeschwerde und Bundesrecht, 1980, in: DÖV 1981, S. 554.

Pfeifer. Manfred, Fiktionen im öffentlichen Recht, insbesondere im Beamtenrecht, 1980, in: DÖV 1981, S. 809 f.

Fleiner-Gerster. Thomas, unter Mitarbeit von Hänni Peter, Allgemeine Staatslehre, 1980, in: NJW 1981, S. 2561 f.

Röschert. Günter, Die Kunst des Rechts, 1981, in: DVBl. 1981, S. 1072.

Noll. Peter, Gesetzgebungslehre, 1973, in: JZ 1981, S. 853-855.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 39 (1981), S. 159 f., 202 f., 405 f.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz, Bd. 28 (1979), in: AöR 106 (1981), S. 292-295.

Staatsrechtslehrer als universale Jurisprudenz, Zum Tode von Ulrich Scheuner am 25. Februar 1981, in: ZevKR 26 (1981), S. 105-129.

Teilbibliographie Ulrich Scheuner-Rezensionen (ohne Völker- und Europarecht), in: ZevKR 26 (1981), S. 130-139.

Buchanzeige von: Nachschlagewerk der Rechtsprechung des Bundesverfassungsgerichts, hrsg. vom Bundesverfassungsgericht, 1980, in: AöR 106 (1981), S. 313-315.

VII 編集 (Herausgebertätigkeit)

H. Ehmke, Beiträge zur Verfassungstheorie und Verfassungspolitik, 1981, mit Vorwort, S. 7-18. 1982.

1982 年**I 著書 (Selbständige Arbeiten)**

Verfassungslehre als Kulturwissenschaft, Berlin 1982, 84 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 436).

II 論文 (Aufsätze)

Vom Kulturstaat zum Kulturverfassungsrecht, in: P. Häberle (Hrsg.), Kulturstaatlichkeit und Kulturverfassungsrecht, 1982, S. 1 ff.

Einleitung: Rezensierte Verfassungsrechtswissenschaft, in: P. Häberle (Hrsg.), Rezensierte Verfassungsrechtswissenschaft, 1982, S. 15-69.

Praämbeln im Text und Kontext von Verfassungen, in: FS für Johannes Broermann, 1982, S. 211-249; jetzt auch in spanischer Übersetzung (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 176-212).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Kulturverwaltungsrecht im Wandel, zu: H. -J. Birk/A. Dittmann/M. Ehrhardt (Hrsg.), Kulturverwaltungsrecht im Wandel, 1981, in: AöR 107 (1982), S. 301-308.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Hangartner. Yvo, Grundzüge des schweizerischen Staatsrechts, Band I: Organisation,

1980, in: JZ 1982, S. 83 f.

Schmid, Gerhard, Politische Parteien, Verfassung und Gesetz, 1981, in: DÖV 1982, S. 652 f.

Maier, Hans, Die ältere deutsche Staats- und Verwaltungslehre, 2. Aufl. 1980, in: DÖV 1982, S. 656 f.

Heyen, Erk Volkmar, : Otto Mayer, 1981, in: DÖV 1982, S. 657 f.

Schröder, Jan, Wissenschaftstheorie und Lehre der „praktischen Jurisprudenz“ auf deutschen Universitäten an der Wende zum 19. Jahrhundert, in: DÖV 1982, S. 660.

Vorländer, Hans, Verfassung und Konsens, 1981, in: NJW 1982, S. 1506.

Meyer-Hesemann, Wolfgang, Methodenwahl in der Verwaltungsrechtswissenschaft, 1981, in: Rechtstheorie 13 (1982), S. 253–256.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 40 (1982), S. 110–112, 278–280.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz, Bd. 29 (1980), in: AöR 107 (1982), S. 640–651.

„Der Gleichheitssatz im modernen Verfassungsstaat“. Göttinger Symposion aus Anlaß des 80. Geburtstages von Gerhard Leibholz (1981), in: AöR 107 (1982) S. 1–14.

Diskussionsbeitrag in: C. Link (Hrsg.), Der Gleichheitssatz im modernen Verfassungsstaat, 1982, S. 83, 85 f., 104 f.

Diskussionsbeitrag bei: Podiumsdiskussion zum Thema Eigentumsschutz sozialversicherungsrechtlicher Positionen, in: Mitteilungen der Landesversicherungsanstalt Oberfranken und Mittelfranken, 24. Jahrg., Heft 12/1982, S. 481 ff. (483–490); jetzt auch in: Rolf Stober (Hrsg.), Eigentumsschutz sozialrechtlicher Positionen, 1986, S. 166–175.

Diskussionsbeitrag in: Der Föderalismus und die Zukunft der Grundrechte, 1982, S. 97–99 mit Beiträgen von H. R. Klecatsky, U. Häfelin, F. O. Kopp, P. Pernthaler, B. Sutter.

Besprechung von: FS zum 70. Geburtstag von Hans Nef, hrsg. von U. Häfelin, W. Haller, G. Müller, D. Schindler, 1981, in: AöR 107 (1982), S. 499–503.

VII 編集 (Herausgebertätigkeit)

Kulturstaatlichkeit und Kulturverfassungsrecht, 1982, mit Originalbeitrag: Vom Kultur-

staat zum Kulturverfassungsrecht, S. 1-59, und Auswahlbibliographie, S. 371-389.

Rezensierte Verfassungsrechtswissenschaft, 1982, mit Einleitungsbeitrag: Rezensierte Verfassungsrechtswissenschaft, S. 15-69.

1983年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Das Grundgesetz der Literaten, Der Verfassungsstaat im (Zerr?) Spiegel der Schönen Literatur, Illustrationen von Bernd Burkhard, Baden-Baden 1983, 115 S.

Die Wesensgehaltgarantie des Art. 19 Abs. 2 Grundgesetz. Zugleich ein Beitrag zum institutionellen Verständnis der Grundrechte und zur Lehre vom Gesetzesvorbehalt, 3., stark erweiterte Aufl. Heidelberg, 1983, 432 S.

II 論文 (Aufsätze)

Europa in kulturverfassungsrechtlicher Perspektive, in: JöR 32 (1983), S. 9 ff. und in: J. Schwarze, W. Graf Vitzthum (Hrsg.), Grundrechtsschutz im nationalen und internationalen Recht, W. von Simson zum 75. Geburtstag, 1983, S. 41-67 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 45-70).

Zeit und Verfassungskultur, in: A. Peisl, A. Mohler (Hrsg.), Die Zeit, 1983, S. 289 ff.; Neuausgabe 1989 (Hrsg. H. Gumin und H. Meier), S. 289-344. (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 627-672).

Menseregte as Tema van'n Demokratiese Staatsregsteorie, in: Tydskrif vir Regswetenskap (hrsg. von Fakultät van Regsgeleerdheid Universiteit van die Oranje-Vrystaat Bloemfontein), Jaargang 8 Nummer 1, Mei 1983, S. 1-II.

Die Gemeinwohlproblematik in rechtswissenschaftlicher Sicht, in: Rechtstheorie 14 (1983), S. 257-284; (jetzt auch in: W. F. Kasch/K. D. Wolff (Hrsg.), Glaube und Gemeinwohl, 1986, S. 111-135, sowie in: South African Yearbook of International Law, Volume 9, 1983, S. 53-77, sowie Europäische Rechtskultur, 1994, S. 323-354).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Müller. Jörg Paul, (unter Mitarbeit von W. Kälin und S. Müller), Elemente einer schweizerischen Grundrechtstheorie, 1982, in: NJM 1983, S. 100.

Hirtschulz. Stefan U., Numerus clausus und Verfassungsverwirklichung, 1979, in: DÖV 1983, S. 169 f.

Thomashausen. André, Verfassung und Verfassungswirklichkeit im neuen Portugal, 1981,

in: German Yearbook of International Law, Jahrbuch für Internationales Recht 26 (1983), S. 474-483.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 41 (1983), S. 92-95, 277.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 30 (1981), in: AöR 108 (1983), S. 456-462.

1984年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Verfassungsschutz der Familie—Familienpolitik im Verfassungsstaat, Heidelberg 1984, 59 S. (Heiderberger Forum 27).

II 論文 (Aufsätze)

Vielfalt der Property Rights und der verfassungsrechtliche Eigentumsbegriff, in: AöR 109 (1984), S. 36-76; (auch in: M. Neumann (Hrsg.), Ansprüche, Eigentums- und Verfügungsrechte, 1984, S. 63-102, sowie Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 484-523).

Das Kulturstaatsprinzip im deutschen Verfassungsrecht, in: Politische Studien, 1984, Heft 276, S. 368-379.

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Aspekte einer Verfassungslehre der Arbeit, Besprechungsaufsatz zu H. Ryffel/J. Schwartländer (Hrsg.), Das Recht des Menschen auf Arbeit, 1983, in: AöR 109 (1984), S. 630-655, (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 524-551).

Arbeit als Verfassungsproblem, zugleich Besprechung von A. Baruzzi. Recht auf Arbeit und Beruf?, 1983, in: JZ 1984 S. 345-355.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Im Dienste an Staat und Recht, FS für Erwin Melichar (zum 70. Geburtstag), hrsg. von H. Schäffer i. V. m. K. König und K. Ringhofer, 1983, in: NJW 1984, S. 716 f.

Meyen. Karl-Ulrich, Kontrolle als Verfassungsprinzip, 1982, in: DVBl. 1984, S. 61-63.

FS für Theodor Maunz (zum 80. Geburtstag am 1. September 1981), hrsg. von P. Lerche, H. Zacher und P. Badura, 1981, in: BayVBl. 1984, S. 126 f.

Bryde. Brun-Otto, Verfassungsentwicklung. Stabilität und Dynamik im Verfassungsrecht

der Bundesrepublik Deutschland, 1982, in: NJW 1984, S. 598.

Selbstverwaltung im Staat der Industriegesellschaft, Festgabe für Georg Christoph von Unruh, hrsg. von A. von Mutius, 1983, in: VBIBW 1984, S. 430-432.

Haverkate. Görg, Rechtsfragen des Leistungsstaates, 1983, in: DÖV 1984, S. 639 f.

Recht und Staat im sozialen Wandel, FS für Hans Ulrich Scupin, hrsg. von N. Achterberg, W. Krawietz und D. Wyduckel, 1983, in: AöR 109 (1984), S. 447-454.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 42 (1984), S. 110-112, 138, 291 f.

Buchanzeigen von: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart N. F., hrsg. von G. Leibholz. Bd. 31 (1982), in: AöR 109 (1984), S. 454-458.

VIII 共同編集 (Mitherausgebertätigkeit)

K. Hesse, Ausgewählte Schriften, 1984 (zusammen mit A. Hollerbach).

G. Dürig, Gesammelte Schriften, 1984 (zusammen mit W. Schmitt Glaeser).

1985年

II 論文 (Aufsätze)

Die Bundesrepublik als Kulturstaat, in: Das Parlament Nr. 24-25, 1985 vom 15./22. Juni 1985, S. 14 f.

Das Kulturverfassungsrecht der Bundesrepublik Deutschland, in: Aus Politik und Zeitgeschichte, Beilage zur Wochenzeitung Das Parlament, B 28/85 vom 13. 7. 1985, S. 11-30.

Der „private“ Verfassungsentwurf Kölz/Müller (1984), in: ZSR 104 (1985), S. 353-365.

Die Freiheit der Wissenschaften im Verfassungsstaat, in: AöR 110 (1985), S. 329-363 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 407-440).

Die Freiheit der Kunst im Verfassungsstaat, in: AöR 110 (1985), S. 577-619 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 441-483).

Neuere Verfassungen und Verfassungsvorhaben in der Schweiz, insbesondere auf kantonaler Ebene, in: JöR 34 (1985), S. 303-424.

IV 書評論文 (Bespreehungsaufsätze)

Grundprobleme der schweizerischen Demokratie, zugleich Besprechung von Renè A. Rhinow, Grundprobleme der schweizerischen Demokratie, 1984, in: DÖV 1985, S. 611-614.

Eine Gedächtnisschrift für Hermann Heller, zugleich Besprechung von Chr. Müller/l. Staff (Hrsg.), Der soziale Rechtsstaat, Gedächtnisschrift für Hermann Heller, 1984, in: DVBl. 1985, S. 949-952.

V 書評 (Buchbesprechungen)

FS für Erwin Stein zum 80. Geburtstag, hrsg. von H. Avenarius, H. Engelhardt, H. Heussner und F. von Zezschwitz, 1983, in: VBIBW 1985, S. 239 f.

Handbuch des Staats- und Verwaltungsrechts des Kantons Basel-Stadt, hrsg. von K. Eichenberger, K. Jenny, R. A. Rhinow, A. Ruch, G. Schmid, L. Wildhaber, 1984, in: JZ 1985, S. 524-526.

Krebs. Walter, Kontrolle in staatlichen Entscheidungsprozessen, 1984, in: DÖV 1985, S. 798 f.

Wilke. Jürgen (Hrsg.), Pressefreiheit, 1984, in: NJW 1985, S. 1614.

Schmitt-Kammler. Arnulf, Elternrecht und schulisches Erziehungsrecht nach dem Grundgesetz, 1983, in: FamRZ 1985, S. 1002.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 43 (1985), S. 76-78.

Nachruf auf Ernst Friesenhahn, in: Ernst Friesenhahn zum Gedächtnis, hrsg. von J. Listl, 1985, S. 25 f.

Diskussionsbeitrag und Ansprache in: B. -O. Bryde, P. Kunig, T. Oppermann (Hrsg.), Neuordnung der Weltwirtschaft?, Hamburger Herbert-Krüger-Colloquium am 7. Dezember 1985, 1986, S. 58-60 bzw. 65-70.

1986年**II 論文 (Aufsätze)**

Neues Kulturverfassungsrecht in der Schweiz und in der Bundesrepublik Deutschland, in: ZSR 105 (1986), S. 195-228.

Verfassungsrechtliche Ewigkeitsklauseln als verfassungsstaatliche Identitätsgarantien, in: Völkerrecht im Dienste des Menschen, FS für Hans Haug, hrsg. von Yvo Hangartner und

Stefan Trechsel, 1986 S. 81-108 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 597-626).

IV 書評論文 (**Besprechungsaufsätze**)

Verfassungsgerichtsbarkeit im Vergleich. Zu Andreas Auer, Die schweizerische Verfassungsgerichtsbarkeit, 1984, in: DÖV 1986, S. 830-832 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 590-596).

Eigentum und Gesetzgebung. Zum gleichnamigen Buch von Rudolf Wendt, 1985, in: Die Verwaltung 19 (1986), S. 392-398.

Verfassungsstaatliche Staatsaufgabenlehre, zugleich Besprechung von: Gesellschaft für Rechtspolitik, Büburger Gespräche 1984, 1984 in: AöR 111 (1986), S. 595-611 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 573-589).

V 書評 (**Buchbesprechungen**)

Sommermann. Karl-Peter, Der Schutz der Grundrechte in Spanien nach der Verfassung von 1978, 1984, in: AöR 111 (1986), S. 175-180.

Hailbronner. Kay, Die Freiheit der Forschung und Lehre als Funktionsgrundrecht, 1979, in: AöR 111 (1986), S. 165-170.

Zacherl. Christian, Verfassungsgerichtsbarkeit in Württemberg-Baden, 1983, in: AöR 111 (1986), S. 300 f.

Ebsen. Ingwer, Das Bundesverfassungsgericht als Element gesellschaftlicher Selbstregulierung, 1985, in: ZRP 1986, S. 206 f.

Reis. Hans, Das Lebensrecht des ungeborenen Kindes als Verfassungsproblem, 1984, in: FamRZ 1986, S. 864 f.

Einigkeit und Recht und Freiheit, FS für Karl Carstens, hrsg. von B. Börner, H. Jahrreiß, K. Stern, 1984, in: NJW 1986, S. 1799.

Wyduckel. Dieter, Ius Publicum, 1984, in: AöR 111 (1986), S. 468-473.

VI その他 (**Sonstiges**)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 44 (1986), S. 114-117.

1987年**I 著書 (Selbständige Arbeiten)**

Feiertagsgarantien als kulturelle Identitätselemente des Verfassungsstaates Berlin 1987, 63 S. (Schriften zum öffentlichen Recht, Bd. 521).

II 論文 (Aufsätze)

Die verfassunggebende Gewalt des Volkes im Verfassungsstaat — eine vergleichende Textstufenanalyse, in: AöR 112 (1987), S. 54–92 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 139–175).

„Gott“ im Verfassungsstaat?, in: FS für Wolfgang Zeidler, hrsg. von W. Fürst, R. 1987, S. 3–17. Herzog, D. C. Umbach, Bd. 1, 1987, S. 3–17 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 213–227).

Utopien als Literaturgattung des Verfassungsstaates, in: Gedächtnisschrift für Wolfgang Martens, hrsg. von I. v. Münch u. P. Selmer, 1987, S. 73–84 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 673–684); in japanischer Übersetzung, 1993.

Die Menschenwürde als Grundlage der staatlichen Gemeinschaft, in: Handbuch des Staatsrechts, Isensee/Kirchhof (Hrsg.), Bd. I, 1987, S. 815–861 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 352–359).

„Wirtschaft“ als Thema neuerer verfassungsstaatlicher Verfassungen, in: Jura (Juristische Ausbildung) 1987, S. 577–584 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 552–572).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Landesverfassungsrechtliche Wachstumsprozesse im Spiegel der Literaturgattungen. Zugleich eine Besprechung von K. Eichenberger, Verfassung des Kantons Aargau, in: DÖV 1987, S. 769–773.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Kuning. Philip, Das Rechtsstaatsprinzip, 1986, in: NJW 1987, S. 175 f.

Alexy. Robert, Theorie der Grundrechte, 1985, in: Der Staat 26 (1987), S. 135–141.

Prause. Christiane, Kunst und Politik, in: UFITA, Archiv für Urheber-, Film-, Funk- und Theaterrecht 104 (1987), S. 331–333.

Held. Jürgen, Der Grundrechtsbezug des Verwaltungsverfahrens, 1984, in: AöR 112 (1987), S. 287–293.

Bettermann, Karl August, Die verfassungskonforme Auslegung, Grenzen und Gefahren, 1986, in: ZZP 100 (1987), S. 459-465.

Hippel, Eike von, Verbraucherschutz, 3. neubearb. Aufl. 1986, in: DÖV 1987, S. 42-44.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 45 (1987), S. 114-116, 251-253.

Familienpolitik im Verfassungsstaat, Interview mit der Zeitschrift Die Realschule, in: Die Realschule 95 (1987), S. 108-110.

Buchanzeige von: Gygi, Fritz, Verwaltungsrecht, 1986, in: NVwZ 1987, S. 964.

1988年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Das Menschenbild im Verfassungsstaat, Berlin 1988, 89 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 540) (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 685-720).

Der Sonntag als Verfassungsprinzip. Berlin, 1988, 95 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 551); Teilabdruck in: J. Wilke (Hrsg.), Mehr als ein Weekend? 1989, S. 27-74.

II 論文 (Aufsätze)

1789 als Teil der Geschichte, Gegenwart und Zukunft des Verfassungsstaates, in: JöR 37 (1988), S. 35-64; auch in: Folgen der Französischen Revolution, hrsg. von H. Krauß, 1989, S. 61-104, auch noch in: Die französische Revolution—Impulse, Wirkungen, Anspruch (Sammelband der Vorträge der Ruprechts-Karl-Universität Heidelberg) 1990, S. 33-62.

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Kommentierung statt Verfassunggebung? Zum neuen Kommentar der Schweizer Bundesverfassung, in: DVBl. 1988, S. 262-268.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 46 (1988), S. 148-151, 273-274.

1989年

II 論文 (Aufsätze)

Verfassungslehre im Kraftfeld der rechtswissenschaftlichen Literaturgattungen: zehn Arbeitsthesen, in: Aktuelle Probleme des Staats- und Verwaltungsrechts, FS für Otto K. Kaufmann, hrsg. von C. Cagianut, W. Geiger, Y. Hangartner, E. Höhn, 1989, S. 15-27 (auch in:

Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 122–138), in japanischer Übersetzung, in: Jurist Nr. 976 (1991), S. 58 ff.

Wissenschaftliche Zeitschriften als Aufgabenfeld juristischen Rezensionswesens, in: Verfassungsrecht und Völkerrecht, Gedächtnisschrift für Wilhelm Karl Geck, hrsg. von W. Fiedler und G. Ress, 1989, S. 277–299.

Textstufen als Entwicklungswege des Verfassungsstaates, in: Des Menschen Recht zwischen Freiheit und Verantwortung, FS für Karl Josef Partsch zum 75. Geb., hrsg. von J. Jekewitz, K. H. Klein u. a., 1989, S. 555–579 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 3–26).

1789 und der moderne Verfassungsstaat, in: Universitas 44 (1989), S. 823–835.

Praktische Grundrechtseffektivität, insbesondere im Verhältnis zur Verwaltung und Rechtsprechung, in: Die Verwaltung, 22. Band (1989), S. 409–419, in: Antonio López Pina (Hrsg.), La garantía constitucional de los derechos fundamentales, 1991 („Qué significa efectividad práctica de los derechos fundamentales“), S. 328–341.

Grundrechte und parlamentarische Gesetzgebung im Verfassungsstaat—das Beispiel des deutschen Grundgesetzes, in: AöR 114 (1989), S. 361 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 360–390), in: Antonio López Pina (Hrsg.), La garantía constitucional de los derechos fundamentales, 1991, S. 99–124.

Grundrechtsgeltung und Grundrechtsarten im Verfassungsstaat, in: JZ 1989, S. 913–919. (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 27–44), auch in: Antonio López Pina (Hrsg.), La garantía constitucional de los derechos fundamentales, 1991 („Efectividad de los derechos fundamentales en el Estado constitucional“), S. 260–277; auch in: Il federalismo e la democrazia europea, a cura di Gustavo Zagrebelsky, 1994, S. 141–187 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates).

Artenreichtum und Vielschichtigkeit von Verfassungstexten, eine vergleichende Typologie, in: FS für Ulrich Hafelin zum 65. Geburtstag, hrsg. von W. Haller, A. Kölz u. a., 1989, S. 225–255 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 228–262).

Die Funktionenvielfalt der Verfassungstexte im Spiegel des „gemischten“ Verfassungsverständnisses, in: Im Dienst an der Gemeinschaft, FS für Dietrich Schindler zum 65. Geburtstag, hrsg. von W. Haller, A. Kölz u. a., 1989, S. 701–710 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 263–272), japanische Übersetzung, 1993; spanische Übersetzung, in: Cuadernos Constitucionales de la Cátedra Fadrique Furió Ceriol n° 17. Valencia, 1996, S. 5–13.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Kirchhof. Ferdinand, Private Rechtsetzung, 1987, in: NJW 1989, S. 2380-2381.

Nowak. Manfred, Politische Grundrechte, in: DVBl. 1989, S. 894 f.

Häfelin. Ulrich/Haller. Walter, Schweizerisches Bundesstaatsrecht—Ein Grundriß, 2. Aufl. 1988, in: DÖV 1989, S. 827 f.

Geiger. Willi, Abweichende Meinungen zu Entscheidungen des BVerfG, in: NJW 1989, S. 2678.

Haehling von Lanzanauer. Reiner, Dichterjurist Scheffel, in: DVBl. 1989, S. 1280.

Raschauer. Bernhard (Hrsg.), Beiträge zum Verfassungs- und Wirtschaftsrecht, Festschrift für Günter Winkler, in: AöR 114 (1989), S. 651.

Lücke. Jörg, Begründungszwang und Verfassung, Zur Begründungspflicht der Gerichte, Behörden und Parlamente, in: AöR 114 (1989), S. 653.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL47 (1989), S. 74-76, 225-256.

Konrad Hesse, zum 70. Geburtstag, in: AöR 114 (1989), S. 1-6.

Buchanzeige von Schütt-Wetschky. Eberhard, Grundtypen parlamentarischer Demokratie, klassisch-altliberaler Typ und Gruppentyp, 1984, in: AöR 114 (1989), S. 520.

Buchanzeige von Luster. Rudolf (Hrsg.), Bundesstaat Europäische Union, Ein Verfassungsentwurf, 1988, in: AöR 114 (1989), S. 523.

Buchanzeige von: Blumenwitz. Dieter, Einführung in das angloamerikanische Recht, 3. Aufl., 1987, in: AöR 114 (1989), S. 534.

Buchanzeige von D. Heckmann und K. Messerschmidt (Hrsg.), Gegenwartsfragen des Öffentlichen Rechts, 1988, in: AöR 114 (1989), S. 663.

Buchanzeige von Schambeck. Herbert (Hrsg.), Österreichs Parlamentarismus, Werden und System, 1986, in: AöR 114 (1989), S. 667.

Buchanzeige von: Karlen. Peter, Das Grundrecht der Religionsfreiheit in der Schweiz, 1988, in: AöR 114 (1989), S. 669.

Buchanzeige von: Grisel, Etienne, Initiative et Référendum Populaires. Traité de la Démocratie semidirecte en Droit Suisse, 1987, in: AöR 114 (1989), S. 670.

Buchanzeige von Constitutiones Africae, R. Rentyens, Rédacteur Général, Volume 1, à feuillets mobiles, 1988, in: AöR 114 (1989), S. 71.

IX 著作一覧 (Bibliographien über Professor Häberle)

von Hyo-Jean Kim, in: Dong-A Law Review, Vol. 9. 1989 (Pusan, Korea), S. 467-498.

1990年

II 論文 (Aufsätze)

Das Grundgesetz vor den Herausforderungen der Zukunft, in: Das akzeptierte Grundgesetz, FS für Günter Dürig zum 70. Geburtstag, hrsg. von H. Maurer u. a., 1990, S. 3-31 (auch in: Verfassung als Öffentlichen Prozeß, 2. Aufl. 1996, S. 746 ff.).

Verfassungspolitik für die Freiheit und Einheit Deutschlands—Ein wissenschaftlicher Diskussionsbeitrag im Vormärz 1990, in: JZ 1990, S. 358-363; auch in: Europ. Zeitschrift des öffentlichen Rechts 1990, S. 147-164 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 721-738 sowie Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 9-26).

Ethik im Verfassungsrecht, in: Institut für Politikwissenschaft, Hochschule St. Gallen—Beiträge und Berichte—, 1990, S. 145; auch in: Rechtstheorie 21 (1990), S. 269-282. (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 563-579).

Die Entwicklungsländer im Prozeß der Textstufendifferenzierung des Verfassungsstaates, in: Verfassung und Recht in Übersee, 1990, S. 225-296 (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 791-864).

Sprachen-Artikel und Sprachenprobleme in westlichen Verfassungsstaaten—eine vergleichende Textstufenanalyse, in: FS zum 65. Geburtstag von Mario M. Pedrazzini, 1990, S. 105-128. (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 273-296).

Dignita' Dell' Uomo E Diritti Sociali Nelle Costituzioni Degli Stati Di Diritto, in: A cura die Marco Borghi: Costituzione e diritto sociali, 1990, S. 99-108.

Ausstrahlungswirkungen des deutschen Grundgesetzes auf die Schweiz. Ein Beispiel für weltweite Prozesse der Produktion und Rezeption „in Sachen Verfassungsstaat“, in: Das Grundgesetz im internationalen Wirkungszusammenhang der Verfassungen—40 Jahre Grundgesetz, hrsg. von U. Battis, E. G. Mahrenholz, D. Tsatsos, 1990, S. 17-52.

Die Hauptstadtfrage als Verfassungsproblem, in: DÖV 1990, S. 989–999. (auch in: Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates, 1992, S. 297–320).

Verfassung und Privatrecht, in: M. Haller, H. Hauser, R. Zäch (Hrsg.), Ergänzungen, Bern 1990, S. 519–522.

Der Entwurf der Arbeitsgruppe „Neue Verfassung der DDR“ des Runden Tisches (1990), in: JöR 39 (1990), S. 319–493 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 27–70).

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Ein griechischer Staatsrechtslehrer in Deutschland. Zugleich Besprechung von D. T. Tsatsos. Von der Würde des Staates zur Glaubwürdigkeit der Politik, in: JZ 1990, S. 227–230 (in griechischer Übersetzung, in NOMIKO BMHA 1990 (ROMOS 37), S. 1368–1371).

Begegnungen von Staatsrechtslehre und Literatur. Peter Schneider zum 70. Geburtstag, in: AöR 115 (1990), S. 83–92.

V 書評 (Buchbesprechungen)

H. J. Faller/P. Kirchhof/E. Träger (Hrsg.), Verantwortlichkeit und Freiheit, Die Verfassung als wertbestimmte Ordnung, FS für Willi Geiger, 1989, in: AöR 115 (1990), S. 229–331.

Arndt. Claus, Amt und Mandat. Ausgewählte Reden und Schriften aus drei Jahrzehnten, 1989, in: NJW 1990, S. 2371.

Hutter. Silvan, Die Gesetzeslücke im Verwaltungsrecht, 1989, in: DVBl. 1990, S. 1007–1008.

Oebbecke. Janbernd, Weisungs- und unterrichtungsfreie Räume in der Verwaltung, 1989, in: DÖV 1990, S. 800–801.

Kirche, Staat, Wissenschaft in einer pluralistischen Gesellschaft, FS zum 65. Geburtstag von Paul Mikat, 1989, in: Universitas 11/90, S. 1109.

Kommentar zum Grundgesetz (AK-GG), Reihe Alternativkommentare, Gesamthrsg. Rudolf Wassermann, 2. Aufl. 1989, in: AöR 115 (1990), S. 507–514.

Kay Hailbronner/Georg Ress/Torsten Stein (Hrsg.), Staat und Völkerrechtsordnung, Festschrift für Karl Doehring, in: AöR 115 (1990), S. 664–667.

VI その他 (Sonstiges)

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 48 (1990), S. 128–130, 167 f., 284–286.

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 49 (1990), S. 154–156.

Buchanzeige von: Korinek. Karl (Hrsg.), Beiträge zum Wirtschaftsrecht, FS für Karl Wenger zum 60. Geburtstag, 1983, in: AöR 115 (1990), S. 358–360.

Buchanzeige von: Zwirner. Henning, Politische Treuepflicht der Beamten, 1987, in: AöR 115 (1990), S. 176.

Buchanzeige von: Häfelin. Ulrich/Haller. Walter, Schweizerisches Bundesstaatsrecht—Ein Grundriß, 2. Aufl. 1988, in: AöR 116 (1991).

Buchanzeige von: Starck. Christian (Hrsg.), Zusammenarbeit der Gliedstaaten im Bundesstaat, Landesberichte und Generalbericht der Tagung für Rechtsvergleichung 1987 in Innsbruck, 1988, in: AöR 115 (1990), S. 347–349.

Laudatio Konrad Hesse, in: Verfassungsrecht zwischen Wissenschaft und Richterkunst, Konrad Hesse zum 70. Geburtstag, hrsg. von H. P. Schneider und Rudolf Steinberg, Heidelberg 1990, S. 107–130.

Mit einem Sieben-Punkte-Plan zur Deutschen Einheit, in: Nordbayer. Kurier vom 17./18. 3. 1990, S. 41.

Die beiden Wege zur Einheit in einem, in: FAZ v. 18. 4. 1990, S. 11 und 12.

„Plebiszit“ in Verfassung einbauen (Interview zusammen mit G. Dürig), in: Die Welt v. 23. 4. 1990.

„Eine Teilrevision tut not“, in: Universitas 1990, S. 883–888.

Buchanzeige von: Steinberger. Helmut, 200 Jahre amerikanische Bundesverfassung. Zu Einflüssen des amerikanischen Verfassungsrechts auf die deutsche Verfassungsentwicklung, 1987, in: AöR 115 (1990), S. 363–365.

Diskussionsbeiträge in: Das Grundgesetz im internationalen Wirkungszusammenhang der Verfassungen—40 Jahre Grundgesetz, hrsg. von U. Battis, E. G. Mahrenholz, D. Tsatsos, S. 250–253, 259–261, 264, 275–276.

Eine Werkstatt für Verfassungspolitik, in: NZZ (Neue Züricher Zeitung) v. 20. 11. 1990, S. 23.

VIII 共同編集 (Mitherausgebertätigkeit)

Verfassungsrecht zwischen Wissenschaft und Richterkunst, Konrad Hesse zum 70. Ge-

burtstag, 1990 (zusammen mit H. P. Schneider u. a.).

Das akzeptierte Grundgesetz, FS für Günter Dürig zum 70. Geburtstag, 1990 (zusammen mit H. Maurer).

Josef Esser, Wege der Rechtsgewinnung, Ausgewählte Aufsätze, 1990 (zusammen mit H. G. Leser).

1991 年

II 論文 (Aufsätze)

Aktuelle Probleme des deutschen Föderalismus, *Die Verwaltung* 24 (1991), S. 169 – 209; in italienischer Übersetzung, in: *Giurisprudenza Costituzionale* XXXVII (1992), S. 3353–3393; in: *Federalismo e regionalismo in Europa*, a cura di A. D'Atena, 1994, S.107–163 und in englischer Übersetzung, in: *University of Rome II, Department of Public Law, Yearbook (1990–1991)*, p. 79–119 (auch in: *Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik*, 1996 S. 83–132). die englische Übersetzung auch in: *Editoriale Scientifica* (ed. A. D'Atena), 1998, S. 119–162.

Gemeineuropäisches Verfassungsrecht, in: *EuGRZ* 1991, S. 261–274; jetzt auch in: Jürgen Schwarze (Hrsg.), *Verfassungsrecht und Verfassungsgerichtsbarkeit im Zeichen Europas*, 1998, S. 11–44; gekürzt auch in: *Universitas* 1992, S. 960–970 und in spanischer Übersetzung, in: *Revista de Estudios Politicos (Nueva Epoca)* 79 (1993), S. 7–46 sowie in: *Derechos Humanos Y Constitucionalismo Ante El Tercer Milenio*, Antonio-Enrique Pérez Luño (coordinador), 1996, S. 187–223; sowie in: *Apuntes de Derecho*, Lima, 1997, año II, num 1, S. 9–37; stark erweiterte Fassung in: Roland Bieber/Pierrre Widmer (Hrsg.), *Der europäische Verfassungsraum*, 1995, S. 361–398 (s. auch selbst. Arbeiten), (auch in: *Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates*, 1992, S. 71–104 sowie *Europäische Rechtskultur*, 1994, S. 33–74).

Die verfassunggebende Gewalt des Volkes: Das Beispiel Deutschland 1989/90/91, in: *REDP/ERPL* 1991, S. 125–133 (auch in: *Verfassung als öffentlicher Prozeß*, 2. Aufl. 1996, S. 774 ff.).

Die Entwicklungsstufe des heutigen Verfassungsstaates—Paradigmen, Verfassungsthemen, Textstufen und Tendenzen in der Weltstunde des Verfassungsstaates—Der polnische Entwurf 1991, in: *Rechtstheorie* 22 (1991), S. 431–447 (auch in: *Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates*, 1992, S. 105–121).

Menschenrechts- und Grundrechtsfragen im Verfassungsentwurf des Polnischen Sejm (1991), in: *REDP/ERPL* 1991, S. 351–368. (auch in: *Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates*, 1992, S. 391–406).

V 書評 (Buchbesprechungen)

Brinkmann, Richard, Natur in den Geisteswissenschaften I, 1988, in: AöR 116 (1991), S. 271–277.

Stober, Rolf, Kommunalrecht, 1987, unter Mitarbeit von Ursula Domke, in: Die Verwaltung 24 (1991), S. 523 f.

Buchanzeige von Heyen, E. V. (Hrsg.), Historische Soziologie der Rechtswissenschaft, IUS Commune Sonderhefte 26 (1986), in: AöR 116 (1991).

VI その他 (Sonstiges)

Buchanzeige von: 40 Jahre Grundgesetz. Der Einfluß des Verfassungsrechts auf die Entwicklung der Rechtsordnung, Ringvorlesung, hrsg. von der Rechtswissenschaftlichen Fakultät der Universität Freiburg, Freiburger Rechts- und Staatswissenschaftliche Abhandlungen, 1990, in: AöR 116 (1991), S. 152 f.

Buchanzeige von: von der Wense, Andreas, Landesverfassungsgerichtsbarkeit der Freien und Hansestadt Hamburg, 1989, in: AöR 116 (1991), S. 290 f.

Buchanzeige von: Knemeyer, Franz-Ludwig (Hrsg.), Die europäische Charta der kommunalen Selbstverwaltung, 1989, in: AöR 116 (1991), S. 324 f.

Laudatio H. H. Rupp, in: Die Verwaltung 24 (1991), S. 355–360.

Im Dienste der „Europäisierung Europas“, in: NZZ v. 7./8. 12. 1991, S. 25.

Buchanzeige von: Schmid, Viola, Die Familie in Artikel 6 des Grundgesetzes, 1989, in: AöR 116 (1991), S. 654 f.

1992 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

I THEORIA, „TON BADMIDON EKSELIKSIS TON KEIMENON“, in: TETRADIA SYNTAGMATIKOY DIKAILOY (Eine Theorie der Stufenentwicklungen der Texte, Verfassungsrechtshefte), Ant. N. Sakkoyla (Hrsg.), Heft 19, Athen 1992.

Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates. Methoden und Inhalte, Kleinstaaten und Entwicklungsländer, Berlin 1992, 969 S. (schriften zum Öffentlichen Recht B. 629).

II 論文 (Aufsätze)

„Werkstatt Schweiz“: Verfassungspolitik im Blick auf das künftige Gesamteuropa, in:

JöR 40 (1991/92), S. 167-173 und in italienischer Übersetzung, in: Quaderni Costituzionali: dicembre 1991, n. 3 (auch in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 355-364).

Das Problem des Kulturstaates im Prozeß der deutschen Einigung — Defizite, Versäumnisse, Chancen, Aufgaben, in: JöR 40 (1991/1992), S. 291-499 (mit Textanhängen) (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 133-236).

Verfassungsentwicklungen in Osteuropa, in: FS für Kitagawa, 1992, S. 129-156; auch in: D. Brühlmeier/R. Nef (Hrsg.), Wege in die Freiheit, Liberales Forum St. Gallen/Liberales Institut Zürich, 1992, S. 67-95 (auch, in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 101-148).

Föderalismus, Regionalismus, Kleinstaaten — in Europa, in: Die Verwaltung 25 (1992), S. 1-19; in italienische Übersetzung, in: Il federalismo e la democrazia europea, a cura di Q. Zagrebelsky, 1994, S. 67-88 (auch, in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 257-278).

Verfassungsentwicklungen in Osteuropa — aus der Sicht der Rechtsphilosophie und der Verfassungslehre, in: AöR 117 (1992), S. 169-211; auch in: Tübinger Universitätsreden, Neue Folge Bd. 3, Reihe der Juristischen Fakultät Bd. 2, Zum Gedenken an Prof. Dr. Dr. E. Fechner, S. 13-88; auch in: Law and State, Institute for Scientific Co-operation, Tübingen (ed.), Vol. 46 (1992), S. 64-90; in englischer Übersetzung, in: L'Etat de Droit, sous la direction de M. Troper, Cahiers de philosophie politique et juridique, n° 24, 1994, p. 127-157; in spanischer Übersetzung in: Pensamiento Constitucional, Pontificia Universidad Católica del Perú, 1995, S. 141-165.

„Jus et lex“ als Problem des Verfassungsstaates — das Beispiel der Verfassunggebung in Polen (1991), in: FS für Ludwig Adamovich, 1992, S. 137-142.

Die Kontroverse um die Reform des deutschen Grundgesetzes (1991/92), in: ZfP 39 (1992), S. 233-263 und in italienischer Übersetzung, in: Quaderni Costituzionali 2/1993, S. 279-318 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 237-276).

Theorieelemente eines allgemeinen juristischen Rezeptionsmodells, in: JZ 1992, S. 1033-1043 (auch, in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 175-208).

Verfassungsrechtliche Fragen im Prozeß der europäischen Einigung, in: EuGRZ 1992, S. 429-437.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Starck, Christian (Hrsg.), Grundgesetz und deutsche Verfassungsrechtsprechung im Spiegel ausländischer Verfassungsentwicklung, 1990, in: AöR 117 (1992), S. 283-290.

Juristengenerationen und ihr Zeitgeist, Abhandlungen großer Juristen aus zwei Jahrhunderten mit einführenden Worten, hrsg. von H. Merz, D. Schindler, H. U. Walder, 1991, in: NJW 1992, S. 1149 f.

Arndt. Claus, Amt und Mandat. Ausgewählte Reden und Schriften aus drei Jahrzehnten, Band 2, 1991, in: NJW 1992, S. 1491.

Heger. Matthias, Deutscher Bundesrat und Schweizer Ständerat—Beiträge zum Parlamentsrecht, Bd. 17. 1990, in: DÖV 1992, S. 802 f.

Mayer-Tasch. Peter Cornelius, Politische Theorie des Verfassungsstaates. Eine Einführung, 1991, in: Universitas 1992, S. 1019 f.

VI その他 (Sonstiges)

Buchanzeige von: A. Kölz/J. P. Müller, Entwurf für eine neue Bundesverfassung vom 16. Mai 1984, 2. überarbeitete Auflage vom 14. Juli 1990, in: AöR 117 (1992), S. 310-313.

Westdeutsche Länder haben sich schäbig verhalten, in: Nordbayer. Kurier vom 7. 2. 1992, S. 112.

Buchanzeige von: G. Schröder/H. -P. Schneider, Soziale Demokratie—das Grundgesetz nach 40 Jahren, 1991, in: AöR 117 (1992), S. 130-132.

Buchanzeige von: E. V. Heyen (Hrsg.) in Verbindung mit G. Melis. J. -L. Mestre, V. Wright und B. Wunder, Jahrbuch für Europäische Verwaltungsgeschichte, Bd. 2, Konfrontation und Assimilation nationalen Verwaltungsrechts in Europa, 1990, in: AöR 117 (1992), S. 307 f.

Buchanzeige von: Müller. Jörg Paul, Die Grundrechte der schweizerischen Bundesverfassung, 1991, in: ZRP 1992, S. 70 f.

Buchanzeige von: D. Merten (Hrsg.), Föderalismus und europäische Gemeinschaften, unter besonderer Berücksichtigung von Umwelt und Gesundheit, Kultur und Bildung, Schriften zum Europäischen Recht 1990, in: AöR 117 (1992), S. 318-320.

Buchanzeige von: R. A. Rhinow/B. Krähenmann, Schweizerische Verwaltungsrechtsprechung, 1990, in: DVBl. 1992, S. 317.

Buchanzeige von: Morscher. Siegbert/Pernthaler. Peter/Wimmer. Norbert (Hrsg.), Festschrift zum 70. Geburtstag von Hans R. Klecatsky, 1990, in: DÖV 1992, S. 230.

Buchanzeige von: Breitenmoser. Stephan, Der Schutz der Privatsphäre gemäß Art. 8 EMRK, Das Recht auf Achtung des Privat- und Familienlebens, der Wohnung und des

Briefverkehrs, 1988, in: AöR 117 (1992), S. 147 f.

Non criminalizziamo i teteschi orientali, in: Avanti vom 27. 3. 1992, S. 19 (interview).

Buchanzeige von: K. W. Nörr (Hrsg.), 40 Jahre Bundesrepublik Deutschland—40 Jahre Rechtsentwicklung, Ringvorlesung der Juristischen Fakultät der Universität Tübingen 1989, Tübinger Rechtswissenschaftliche Abhandlungen, Bd. 69, 1990, in: AöR 117 (1992), S. 487–489.

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 51 (1992), S. 117–120, S. 295–298.

IX 著作一覧 (Bibliographien über Professor Häberle)

von Tsuyoshi Hatajiri, in: Jahresbericht über die Forschungen der Josai Universität, Saitama Japan, Bd. 16, 31. 3. 1992, S. 29–75.

1993 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Grundrechte im Leistungsstaat (VVDStRL 30 (1972), S. 43 ff.), als selbständiger Band erschienen in japanischer Sprache, „kisonken-ron“, 1993.

II 論文 (Aufsätze)

Der Föderalismus in rechtsvergleichender Perspektive, in: H. Holzhey/S. Blättler (Hrsg.), Nach 701 Jahren — muß man die Schweiz neu erfinden?; Philosophisches Seminar der Universität Zürich, 1992, S. 136–157; auch in: REDP/ERPL 1993, S. 11–28.

Altern und Alter des Menschen als Verfassungsproblem, in: FS für Peter Lerche, 1993, S. 189–211 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 751–780).

„Sport“ als Thema neuerer verfassungsstaatlicher Verfassungen, in: FS für Werner Thieme, 1993, S. 25–53 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 715–749).

Der Regionalismus als werdendes Strukturprinzip des Verfassungsstaates und als europarechtspolitische Maxime, in: AöR 118 (1993), S. 1–44; in spanische Übersetzung (auch, in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 209–256).

Bedeutungsgehalte und Funktionen des Parlamentsgesetzes im Verfassungsstaat — eine Skizze, in: Schweizerisches Zentralblatt für Staats- und Verwaltungsrecht 94 (1993), S. 189–199, in spanischer Übersetzung in: Democracia Representativa y Parlamentarismo, cd. Antonio Lóez Pina, 1994, S. 67–79 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht

und Verfassungspolitik, 1996 S. 521–534).

Werner von Simons „Stimme“ im Konzert der Staats- und Verfassungslehre, *EuR*, Beiheft 1, 1993, S. 7–18.

Die Verfassungsbewegung in den fünf neuen Bundesländern, in: *JÖR* 41 (1993), S. 69–307 (mit Textanhangen) (auch in: *Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik*, 1996 S. 277–308 sowie *Verfassung als öffentlichen Prozeß*, 2. Aufl. 1996, S. 783 ff.).

Grundrechte in pluralistischen Gesellschaften—die Verfassung des Pluralismus, in: *Die Verwaltung* 26 (1993), S. 421–447; in italienische Übersetzung, in: *La democrazia alla fine del secolo*, R. A. Dahl, G. Ferrara, P. Häberle, G. E. Rusconi (Hrsg.), a cura di M. Luciani, 1994, S. 93–134.

Das Staatsgebiet als Problem der Verfassungslehre, in: *FS G. Batliner*, 1993, S. 397–421 (auch in: *Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik*, 1996 S. 535–562).

Soziale Marktwirtschaft als „Dritter Weg“. Ein Vorschlag für die Einbringung der sozialen Marktwirtschaft in das Grundgesetz—Sieben Thesen zu einer Verfassungstheorie des Marktes, in: *ZRP* 1993, S. 383–389; in italienische Übersetzung, in: *Le democrazia alla fine del secolo*, R. A. Dahl, G. Ferrara, P. Häberle, G. E. Rusconi (Hrsg.), a cura di M. Luciani, 1994, S. 135–173; in Modifikation: Konsequenzen für die Verfassunggebung in Polen, in polnische Übersetzung, in: *Konstytucja i Gospodarka*, Piotr Kaczanowski (Hrsg.), Warszawa 1995, S. 7–33 in spanischer Übersetzung: *Incurtus. Perspectiva de una doctrina constitucional del mercado: siete tesis de trabajo*, in: *Pensamiento Constitucional Año N° 4*, 1997, S. 13–29. (auch in: *Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik*, 1996 S. 691–713).

Der Kleinstaat als Variante des Verfassungsstaates, in: A. Waschkuhn (Hrsg.), *Kleinstaat*, Politische Schriften, Bd. 16, 1993, S. 121–176 (auch in: *Rechtsvergleichung im Kraftfeld des Verfassungsstaates*, 1992, S. 739–787).

Die Entwicklung des Föderalismus in Deutschland—insbesondere in der Phase der Vereinigung in: J. Kramer (Hrsg.), *Föderalismus zwischen Integration und Sezession*, 1. Aufl. 1993, S. 201–243.

Das Konzept der Grundrechte (Derechos Fundamentales), in: *Rechtstheorie* 24 (1993), S. 397–434 und in spanischer Übersetzung: *El Concepto de los Derechos Fundamentales*, in: *Problemas Actuales de los Derechos Fundamentales*, ed. de José M. Saucá, 1994, S. 81–126 (auch, in: *Europäische Rechtskultur*, 1994, S. 279–322).

Neuere Grundrechtsentwicklungen in Deutschland, in: *Revue Européenne de Droit Public* 1992, S. 83–99; in italienischer Übersetzung in: *Giurisprudenza italiana*, 1993, Disp. 3^a, Parte IV; in spanischer Übersetzung in: *Derechos y Libertades. Revista del Instituto Bartolomé de las Casas*, 1993; S. 149–167 und in: *Pensamiento Constitucional*, Pontificia Universidad Católica del Perú, 1994, S. 45–60.

Das Grundgesetz als Verfassung des vereinten Deutschland, in italienischer Sprache, Elisabetta Palici (Hrsg.), *Le Costituzioni Dei Paesi Dell 'Unione Europea*, 1993, S. 133–146.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Moor, Pierre, *Droit administratif*, Vol. II—*Les actes administratifs et leur contrôle*, 1991, in: *DÖV* 1993, S. 172 und 2. Neubearb. Aufl., 1994, in: *DÖV* 1995, S. 787 f.

Geis, Max-Emanuel, *Kulturstaat und kulturelle Freiheit. Eine Untersuchung des Kulturstaatskonzepts von Ernst Rudolf Huber*, 1990, in: *BayVBl.* 1993, S. 94 f.

v. Hippel, Eike, *Rechtspolitik—Ziele, Akteure, Schwerpunkte*, 1992, in: *JZ* 1993, S. 352–354.

Fechner, Frank, *Thomas Mann und die Demokratie: Wandel und Kontinuität der demokratierelevanten Äußerungen des Schriftstellers*, 1990, in: *NJW* 1993, S. 1452 f.

Meder, Theodor, *Die Verfassung des Freistaates Bayern, Handkommentar*, 4. Aufl., 1992, in: *AöR* 118 (1993), S. 143–146.

Merten, Detlef (Hrsg.), *Föderalismus und europäische Gemeinschaften, unter besonderer Berücksichtigung von Umwelt und Gesundheit, Kultur und Bildung*, 1990, in: *Diálogo Científico*, Instituto de Colaboración Científica, Vol. 2, N^o. 2, 1993, S. 60–63.

VI その他 (Sonstiges)

Buchanzeige von: J. Lücke, *Vorläufige Staatsakte. Auslegung, Rechtsfortbildung und Verfassung am Beispiel vorläufiger Gesetze, Urteile, Beschlüsse und Verwaltungsakte*, Tübingen 1991, in: *NVwZ* 1993, S. 459 f.

Buchanzeige von: J. Dietlein, *Die Lehre von den grundrechtlichen Schutzpflichten*, 1992, in: *JZ* 1993, S. 246 f.

Buchanzeige von: G. Haverkate, *Verfassungslehre, Verfassung als Gegenseitigkeitslehre*, 1992, in: *ZRP* 1993, S. 270 f.

Buchanzeige von: E. Denninger/M. O. Hinz/P. C. Mayer-Tasch/G. Rilleke (Hrsg.), *Kritik und Vertrauen*, FS für Peter Schneider, 1990, in: *AöR* 118 (1993), S. 150–152.

Buchanzeige von: E. Zivier, Verfassung und Verwaltung von Berlin, 1992, in: AöR 118 (1993), S. 346 f.

Buchanzeige von: J. Bauer (Hrsg.), Europa der Regionen. Aktuelle Dokumente zur Rolle und Zukunft der deutschen Länder im europäischen Integrationsprozeß, 1992, in: JZ 1993, S. 832 f.

Diskussionsbeiträge in: Zur Funktion des Rechts für die Reform staatlicher Institutionen, Symposium zum 70. Geburtstag von Kurt Eichenberger, hrsg. von G. Müller/R. A. Rhinow u. a., 1993, S. 64–66, 81 f., 113–116.

Diskussionsbeiträge in: Germania restituta, Wissenschaftliches Symposium anlässlich des 60. Geburtstages von Klaus Stern, hrsg. von J. Burmeister/M. Nierhaus/F. Ossenbühl/G. Püttner/M. Sachs / P.J. Tettinger, 1993, S. 52f., S. 85 ff., S. 147 f., S. 176 f.

Stellungnahmen in: The Draft Polish Constitution 1991 in the Light of Comparative Law, hrsg. von M. Piechowiak, R. Hliwa, 1993, S. 36 ff., 58 ff., 64 ff., 76 ff., 139 ff.

Resumé zu: Der Regionalismus als werdendes Strukturprinzip des Verfassungsstaates und als europarechtspolitische Maxime (AöR 118 (1993), S. Iff.), in: Dialogo Cientifico, Instituto de Colaboration Cientifica, Vol. 2, No 2, 1993, S. 63 f.

Saggio introduttivo. Germania-Legge Fondamentale, in: E. P. di Suni Prat/M. C. F. Cassella (Hrsg.), Le Costituzioni dei Paesi della Comunità Europea, 1993, S. 133–146.

1994 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Europäische Rechtskultur—Versuch einer Annäherung in zwölf Schriften, Baden-Baden 1994, 407 S.

II 論文 (Aufsätze)

Perspektiven einer kulturwissenschaftlichen Transformationsforschung — Übergangs-, Transfer-, und Rezeptionsprobleme auf dem Wege des (post-) kommunistischen Osteuropa zum gemeineuropäischen Verfassungsstaat, in: FS Ernst Gottfried Mahrenholz, 1994, S. 133–153; in polnischer Übersetzung, in: Acta Universitatis Wratislaviensis, N° 1850, 1996, S. 37–54 (auch, in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 149–174).

Monarchische Strukturen und Funktionen in europäischen Verfassungsstaaten — eine vergleichende Textstufenanalyse, in: FS Herbert Schambeck, 1994, S. 683–699 (auch in: Europäische Rechtskultur, 1994, S. 365–385).

Die Verfassungsbewegung in den fünf neuen Bundesländern Deutschlands 1991 bis 1992, in: AÖR 42 (1994), S. 149–324.

Europäische Rechtskultur, in: Europa—Aber was ist es? Bayreuther Historische Kolloquien, hrsg. von A. M. Birke/F. Bosbach/J. A. Schlumberger u. a., 1994, S. 163–186; als einleitender Aufsatz, jetzt in: P. Häberle, Europäische Rechtskultur, 1994, S. 9–32; jetzt auch in: REDP/ERPL 1994, S. 287–311; in italienischer Übersetzung, in: Paolo Ridola (Hrsg.), La costituzione europea tra cultura e mercato, 1997, S. 15–37.

Der Fundamentalismus als Herausforderung des Verfassungsstaates: rechts- bzw. kulturwissenschaftlich betrachtet, in: Liber Arnivorum, J. Esser, 1995, S. 50–75; in spanischer Übersetzung (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 581–609).

Die Freiheit der Kunst in kulturwissenschaftlicher und rechtsvergleichender Sicht, in: Kunst und Recht im In- und Ausland, Rechtsstaat in der Bewährung, Band 28, 1994, S. 37–87 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 611–661).

Das Prinzip der Subsidiarität aus der Sicht der vergleichenden Verfassungslehre, in: AÖR 119 (1994), S. 169–206; auch in: Subsidiarität, hrsg. v. A. Riklin/G. Batliner, in: Liechtenstein, Politische Schriften, Bd. 19, 1994, S. 267–310 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 401–444).

Bundesverfassungsrichter—Kandidaten auf dem Prüfstand? Ein Ja zum Erfordernis „öffentlicher Anhörung“, in: B. Guggenberger/A. Meier (Hrsg.), Der Souverän auf der Nebenbühne, 1994, S. 131–133 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 2. Aufl. 1996, S. 814 ff.).

Das Malogon Demokratie/Markt als Problem des Verfassungsstaates—Plädoyer für das Staatsziel „soziale Marktwirtschaft“ in: B. Guggenberger/A. Meier (Hrsg.), Der Souverän auf der Nebenbühne, 1994, S. 213–218.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Bolz, Marcel, Das Verhältnis von Schutzobjekt und Schranken der Grundrechte, 1991, in: DÖV 1994, S. 85 ff.

Blanke, Hermann-Josef, Europa auf dem Weg zu einer Bildungs- und Kulturgemeinschaft, 1994, in: DVBl. 1995, S. 761 f.

VI その他 (Sonstiges)

Arbeitsbericht über das Jahr am Wissenschaftskolleg zu Berlin 1992/93, in: Wissenschaftskolleg Jahrbuch 1992/93, hrsg. von W. Lepenies, 1994, S. 51–55.

Bericht: Ein Jahr am Wissenschaftskolleg zu Berlin (1992/93), in: Spektrum Universität Bayreuth, Nr. 1/94, S. 11–13.

Buchanzeige von: R. Eckhoff, Der Grundrechtseingriff, Schriftenreihe Völkerrecht Europarecht Staatsrecht, Bd. 4, A. Bleckmann (Hrsg.), 1992, in: NVwZ 1994, S. 466 f.

Unità politica e pluralismo culturale in Germania, Gespräch mit J. Luther, abgedruckt in: Quale Federalismo?. Interviste sull'Italia del futuro, a cura di M. Sabella/N. Urbinati, S. 169–184.

„Die Euphorie ist vorbei“. Interview zu Verfassungsberatungen in Polen, in: Nordbayerischer Kurier vom 20. Dezember 1994, S. 10.

Diskussionsbeiträge, in: Die multikulturelle und multiethnische Gesellschaft. Eine Herausforderung an die Europäische Verfassung, Thomas Fleiner-Gerster (Hrsg.), S. 37–45, 77–79, 125–130, 185–188, 207–213.

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 53 (1994), S. 114–116, 147, 244 f.

1995 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Wahrheitsprobleme im Verfassungsstaat, Baden-Baden 1995, 99 S.; Extrakt in griechischer Übersetzung, in: Almenopoulos 4, Etos 51, Thessaloniki, 1997, S. 465–474; vollständig in japanischer Übersetzung, in: Kobe Law Journal Vol. XLVII, March 1998, N° 4, S. 763–821 (1. Teil); Vol. XLVIII, June 1998, N° 1, S. 125–182 (2. Teil); in italienischer Übersetzung.

II 論文 (Aufsätze)

Dokumentation von Verfassungsentwürfen und Verfassungen ehemals sozialistischer Staaten in (Süd) Osteuropa und Asien, in: JöR 43 (1995), S. 105–325; 44 (1996), S. 321–564.

Verläufige und punktuelle Stellungnahme zum Verfassungsentwurf Estland, in: JöR 43 (1995), S. 170–183 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 2. Aufl. 1996, S. 693 ff.).

Die Schlußphase der Verfassungsbewegung in den neuen Bundesländern (1992/93), in: JöR 43 (1995), S. 355–474 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 309–399).

Ein Zwischenruf zur föderalen Neugliederungsdiskussion in Deutschland—Gegen die Entleerung von Art. 29 Abs. 1 GG, FS Wolfgang Gitter, 1995, S. 315–330 (auch in: Verfassung als öffentlicher Prozeß, 2. Aufl. 1996, S. 792 ff.).

Europaprogramme neuerer Verfassungen und Verfassungsentwürfe—der Ausbau von nationalem Europaverfassungsrecht, in: FS U. Everling, 1995, S. 355–379 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 445–476).

Rechtsquellenprobleme im Spiegel neuerer Verfassungen—ein Textstufenvergleich, in: ARSP-Beiheft 62, 1995, S. 127–14 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 497–519), in polnischer Übersetzung, in: Przegląd Sejmowy, Dwumiesięcznik ROK IV 4 (16)/1996, S. 58–74.

National-verfassungsstaatlicher und universaler Kulturgüterschutz—ein Textstufenvergleich, F. Fechner/T. Oppermann/L. V. Prott (Hrsg.), Prinzipien des Kulturgüterschutzes, 1996, S. 91–112.

Verfassungspolitische Maximen für die Ausgestaltung der „Europafähigkeit“ Polens, Die Verwaltung. 28 (1995), S. 249–256 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 663–691 sowie Verfassung als öffentlicher Prozeß, 2. Aufl. 1996, S. 783 ff.).

Die europäische Verfassungsstaatlichkeit, in: KritV 1995, S. 298–312 (auch in: Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik, 1996 S. 477–495).

Aspekte einer kulturwissenschaftlich-rechtsvergleichenden Verfassungslehre in weltbürgerlicher Absicht” — die Mitverantwortung für Gesellschaften im Übergang, in: JöR 45 (1997), S. 555–587; jetzt auch in: R. Pitschas (Hrsg.), Entwicklungen des Staats- und Verwaltungsrechts in Südkorea und Deutschland, 1998, S. 27–56.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Saladin. Peter, Wozu noch Staaten?, 1995, in: ZRP 1995, S. 353.

Häfelin. Ulrich/Haller. Walter, Schweizerisches Bundesstaatsrecht, 3. Aufl., 1993, in: NJW 1995, S. 2338.

VI その他 (Sonstiges)

Ethik im Verfassungsstaat, in: NZZ vom 05. Juli 1995, S. 15.

Diskussionsbeiträge in: Zur Lage der parlamentarischen Demokratie. Symposium zum 60. Geburtstag von P. Badura, hrsg. von P. M. Huber/W. Möhle/M. Stock 1995, S. 147–149, 166.

Einführung zu: 50 Jahre danach—Unser Umgang mit der Vergangenheit 1945–1995, Symposium von ELSA-Bayreuth e. V. 1995, hrsg. von F. Huber/S. Oenning, 1995, S. 7–9.

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 54 (1995), S. 105–107, 338–340.

1996年**I 著書 (Selbständige Arbeiten)**

Das Grundgesetz zwischen Verfassungsrecht und Verfassungspolitik — Ausgewählte Studien zur Vergleichenden Verfassungslehre in Europa, Baden-Baden 1996, 799 S.

Retos actuales del Estado Constitucional, Bilbao 1996.

Verfassung als öffentlicher Prozeß—Materialien zu einer Verfassungstheorie der offenen Gesellschaft, Berlin, 2. Aufl. 1996, 881 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 353).

II 論文 (Aufsätze)

Grundfragen einer Verfassungstheorie des Regionalismus in vergleichender Sicht, in: J. Kramer, (Hrsg.), Die Entwicklung des Staates der Autonomen in Spanien und der bundesstaatlichen Ordnung in der Bundesrepublik Deutschland, 1996, S. 75–127, auch in spanischer Übersetzung, in: Estudios de Derecho Público, Gedächtnisschrift für J. J. Ruiz-Rico, 1997, S. 1161 ff.

Der Verfassungsstaat in entwicklungsgeschichtlicher Sicht, in: J. Burmeister (Hrsg.), Verfassungsstaatlichkeit, FS K. Stern, 1996.

Erwartungen an die Pädagogik—Aus der Sicht des Verfassungsrechts, in: Andreas Gruschka (Hrsg.), Wozu Pädagogik? Die Zukunft bürgerlicher Mündigkeit und öffentlicher Erziehung, 1996, S. 142–159.

Ethik im Verfassungsstaat, in: FS Knöpfle, 1996, S. 119–126.

Die Grundrechte im Spiegel der Judikatur des BVerfG—Darstellung und Kritik, in: REDP 8 (1996), S. 11–48.

Ein deutscher Beitrag zur italienischen Regionalismus- bzw. Föderalismusdebatte, in: FS Jean-François Aubert, 1996.

Ein „Zwischenruf“ zum Diskussionsstand in der deutschen Staatsrechtslehre. Geburtstagsblatt für Hans Maier, in: FS für Hans Maier, 1996, S. 327–339.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Hofmann, Hasso, Verfassungsrechtliche Perspektiven, in: NJW 1996, S. 1197.

Häfelin, Ulrich/Müller, Georg, Grundriß des Allgemeinen Verwaltungsrechts, 2. Aufl. 1993, in: DÖV 1996, S. 430.

Kirchhof Paul, Stetige, Verfassung und politische Erneuerung, in: NJW 1996, S. 1397.

Zagrebelsky. Gustavo, 11 diritto mite, Legge diritti giustizia, in: AöR 1996, S. 309–313.

Winkler. Günther, Zeit und Recht, in: DÖV 1996, S. 755 f.

Lendi. Martin, Bewährung des Rechts-Wirklichkeit, Problem lösungsfähigkeit, Politik-relevanz, 1992, in: DÖV 1996, S. 798.

VI その他 (Sonstiges)

Geburtstagsblatt für Jürgen Harbich, in: F. Höfer/G. Brunner/E. Meyer (Hrsg.), 60 Jahre Jürgen Harbich, Werk und Würdigung, 1996, S. 130 f.

Buchanzeige von: Carsten Doerfert, Das Archiv des öffentlichen Rechts, 1885–1918, in: ZNR 1996, S. 165 f.

Buchanzeige von: Eckart Klein (Hrsg.), Grundrechte, soziale Ordnung und Verfassungsgerichtsbarkeit, FS für Ernst Benda, in: AöR 1996, S. 317 f.

Buchanzeige von: Wolfgang Kopke, Rechtschreibreform und Verfassungsrecht, 1995, in: JZ 1996, S. 719 f.

Buchanzeige von: Bernhard Grossfeld, Kernfragen der Rechtsvergleichung, 1996, in: JZ 1996, S. 853.

Buchanzeige von: Franz-Ludwig Knemeyer (Hrsg.), Europa der Regionen—Europa der Kommunen, Wissenschaftliche und politische Bestandsaufnahme und Perspektive, 1994, in: AöR 121(1996), S. 679 f.

Buchanzeige von: Gerhard Robbers (Hrsg.), Staat und Kirche in der Europäischen Union, 1995, in: AöR 121 (1996), S. 677–679.

Buchanzeige von: Ulrich Beyerlin/Michael Bothe/Rainer Hofmann/Ernst-Ulrich Petersmann (Hrsg.), Recht zwischen Umbruch und Bewahrung, FS für Rudolf Bernhardt, 1995, in: AöR 121 (1996), S. 663–665.

Diskussionsbeitrag in: Steuern im Verfassungsstaat, Symposion zu Ehren von Klaus Vogel, 1996, S. 55–57.

Interview zum Thema: El rol de los tribunales constitucionales ante los desafíos contemporáneos, in: Pensamiento Constitucional, N° 3, 1996, S. 279–289.

Laudatio Alexander Hollerbach—65 Jahre, in KuR 1996, S. 41–45.

Nachruf auf Günter Dürig, in: NJW 1997, S. 305 f.

El rol de los tribunales constitucionales ante los desafíos contemporáneos, Interview in E. de Graduados, Pensamiento Constitucional Año III N° 3, 1996, S. 279–289.

Diskussionsbeiträge in: Neue Wege der Staatslehre, Karl Weber/Irmgard Rath-Kathrein (Hrsg.), 1996, S. 19–21, 53–56, 92 f.

Diskussionsbeiträge in: VVDStRL 55 (1996), S. 136 f., 345.

VIII 共同編集 (Mitherausgebertätigkeit)

Politik-Bildung-Religion, Festschrift für Hans Maier, 1996, hrsg. von T. Stammen, H. Oberreuther, P. Mikat in Verbindung mit H. Gerl-Falkovitz, P. Häberle, U. Matz, E. Schmidt, P. -L. Weinacht.

1997 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Europäische Rechtskultur, 1994; Taschenbuchausgabe, 1997.

Gemeineuropäisches Verfassungsrecht, Basel 1997 (Basler Schriften zur europäischen Integration, Nr. 31).

Hermenêutica Constitucional—A sociedade dos intérpretes da constituição Contribuição para a interpretação pluralista e „procedemental“ da Constituição, Porto Alegre (Brasilien), 1997.

50 Jahre Landesverfassung der Freien Hansestadt Bremen—Die Zukunft der Landesverfassung der Freien Hansestadt Bremen im Kontext Deutschlands und Europas. Mit einer Einführung von D. Schefold, von der Bremischen Bürgerschaft herausgegebener Festvortrag, 1997.

Die Wesensgehaltgarantie des Art. 19 Abs. 2 Grundgesetz. in spanischer Übersetzung: La Libertad Fundamental en el Estado Constitucional, 1999.

II 論文 (Aufsätze)

Die Verfassungsbeschwerde im System der bundesdeutschen Verfassungsgerichtsbarkeit, in: JöR 45 (1997), S. 89–135, in spanischer Übersetzung, in: Garcia Belaunde, D./Fernandez Segado, F. (cnord.), La Jurisdiccion Constitucional en Iberoamerica, Madrid 1997, S. 225–282.

Aspekte einer kulturwissenschaftlich-rechtsvergleichenden Verfassungslehre in „welt-

bürgerlicher Absicht"—die Mitverantwortung für Gesellschaften im Übergang, in: JÖR 45 (1997), S. 555-581; jetzt auch in: Rainer Pitschas (Hrsg.), Entwicklungen des Staats- und Verwaltungsrechts in Südkorea und Deutschland, 1998, S. 27-56.

Das „Weltbild“ des Verfassungsstaates—eine Textstufenanalyse zur Menschheit als verfassungsstaatlichem Grundwert und „letztem“ Geltungsgrund des Völkerrechts, in: Burkhardt Ziemke/Theo Langheid/Heinrich Wilms/Görg Haverkate (Hrsg.), Staatsphilosophie und Rechtspolitik, FS Martin Kriele, 1997, S. 1277-1306.

Die Kunst der kantonalen Verfassunggebung—das Beispiel der Totalrevision in St. Gallen (1996), in: Schweizerisches Zentralblatt für Staats- und Verwaltungsrecht, 1997, S. 97-120; erweiterte Fassung in: JÖR 47 (1999), S. 149-170 mit Textanhängen S. 171-398.

La Legge Fondamentale Tedesca, Introduzione, in: Le Legge Fondamentale Tedesca, 1997, S. 1-42.

Un programma: riflessioni sulla continuità e gli sviluppi dei seminari di Villa Vigoni, in: P. Ridola (Hrsg.), La costituzione europea tra cultura e mercato, 1997, S. 153-159.

„Staatsbürgerschaft“ als Thema einer europäischen Verfassungslehre, in: FS für M. Heckel, 1999; in ital. Übersetzung, in: Rivista di Diritto Costituzionale, Torino, 1997, 5. 19-35.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Luther. Jörg, Die italienische Verfassungsgerichtsbarkeit, Geschichte, Prozeßrecht, Rechtsprechung, in: Die Verwaltung 30 (1997), S. 116-118.

75 Jahre Bundesverfassung, Festschrift, hrsg. von der Österreichischen Parlamentarischen Gesellschaft, in: ZRP 1997, S. 120.

Neumann. Heinzgeorg, Die Verfassung der Freien Hansestadt Bremen, 1996, in: AöR 122 (1997), S. 156-158.

J. Ipsen/H. -W. Rengeling/M. Mössner/A. Weber (Hrsg.), Verfassungsrecht im Wandel, 1995, in: AöR 122 (1997), S. 149-151.

Baumann. Herbert/Ebert. Matthias, Die Verfassungen der Mitgliedsländer der Liga der Arabischen Staaten, 1995, in: AöR 122 (1997), 5. 294-297.

VI その他 (Sonstiges)

Buchanzeige von: Dietlein. Johannes, Die Grundrechte in den Verfassungen der neuen Bundesländer, 1993, in: AöR 122 (1997), S. 174 f.

Buchanzeige von: Reiner Schulze (Hrsg.), Europäische Rechts- und Verfassungsgeschichte, 1991, in: AöR 122 (1997), S. 168 f.

Buchanzeige von: Greulich, Susanne, Länderneugliederung und Grundgesetz, 1995, in: AöR 122 (1997), S. 320–322.

Buchanzeige von: Hans-Werner Rengeling (Hrsg.), Europäisierung des Rechts, 1996, in: DVBl. 1997, S. 1075 f.

Vorwort zu Maria Luisa Balaguer Callejón, Interpretación de la constitución y ordenamiento jurídico, Madrid, 1997, S. 13–14.

Diskussionsbeiträge in VVDStRL 56(1997), S. 105–107, S. 309.

1998 年

I 著書 (Selbständige Arbeiten)

Libertad, igualdad, fraternidad, 1789 como historica, actualidad y futuro del Estado constitucional, Madrid, 1998.

Verfassung als öffentlicher Prozeß, Materialien zu einer Verfassungstheorie der offenen Gesellschaft, Berlin 3. Aufl. 1998, 881 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 353).

Verfassungslehre als Kulturwissenschaft, 2. stark erweiterte Aufl., Berlin 1998, 1188 S. (Schriften zum Öffentlichen Recht, Bd. 436).

II 論文 (Aufsätze)

Die Zukunft der Landesverfassung der Freien Hansestadt Bremen im Kontext Deutschlands und Europas — zugleich ein Beitrag zu einer föderalen Verfassungstheorie der Stadtstaaten, in: JZ 1998, S. 57–66; erweiterte Fassung siehe I. Selbständige Arbeiten.

Das ewige Ringen um die Gerechtigkeit — Die Rechtswissenschaft auf dem Weg nach Europa, in: Forschung & Lehre (2/98), Wissenschaften im Portrait, S. 86–88, in spanischer Übersetzung, in: Pensamiento Constitucional Año V, N° 5, 1998, S. 13–19.

Struktur und Funktionen von Verfassungen — Verfassunggebung — ein Prozeß, in: NZZ vom 3. 14. 1. 1998, S. 19–20.

Die europäischen verfassungsrechtlichen Erfahrungen der Nachkriegszeit — Das Beispiel Deutschland (1945/49–1996), in: JöR 46 (1998), S. 69–94; auch in ERPL/REDP, Vol. 9, no 2, summer/été 1997, S. 267–304 (mit Zusammenfassungen auf Englisch, Französisch, Deutsch und Italienisch); jetzt auch in kroatischer Übersetzung, in: Politicka misao (croatian politi-

cal science review) Zagreb 1998, Vol. 35 N° 3, S. 158–186.

Gibt es eine europäische Öffentlichkeit?, in: B. Ehrenzeller u. a. (Hrsg.), FS für Yvo Hangartner, 1998, 5. 1007–1926; in erweiterter Fassung, in: ThürVBl 1998, S. 121–128; jetzt auch in spanischer Übersetzung, in: Revista de Derecho Comunitario Europeo, 3 Año 2 Enero/Junio 1998, S. 113–136.

Rechtsphilosophische „Nebenstunden“ in St. Gallen, in: 5. Spoun u.a. (Hrsg.), Universität und Praxis, Zürich, 1998, S. 129–135.

Ein Verfassungsrecht für künftige Generationen—Die „andere“ Form des Gesellschaftsvertrages: der Generationenvertrag, in: Franz Ruland/Bernd Baron von Maydell/Hans-Jürgen Papier (Hrsg.) Verfassung, Theorie und Praxis des Sozialstaats, FS für Hans F. Zacher zum 70. Geburtstag, 1998, S. 215–233.

Die Verfassung der Ukraine (1996) im europäischen Rechtsvergleich, in: DÖV 1998, S. 761–767.

Zwei Aspekte der Verfassungsreform in Italien (1997), in: Olaf Werner/Peter Häberle/Zentaro Kitagawa /Ingo Saenger (Hrsg.), Brücken für die Rechtsvergleichung, FS für Hans Leser, 1998, S. 399–408.

Strukturen und Funktionen von Übergangs- und Schlußbestimmungen als typisches verfassungsstaatliches Regelungsthema und -instrument, in: FS für Martin Lendi, 1998, S. 137–148.

Föderalismus und Regionalismus in Europa, REDP Vol. 10–N° 2, summer 1998, S. 299–326.

IV 書評論文 (Besprechungsaufsätze)

Rezensionsabhandlung: Brugger. Winfried (Hrsg.), Die Legitimation des Grundgesetzes aus Sicht von Rechtsphilosophie und Gesellschaft, in: AöR 123 (1998), S. 476–481.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Uerpmann. Robert, Die Europäische Menschenrechtskonvention und die deutsche Rechtsprechung, 1993, in: AöR 123 (1998), 5. 166 f.

Wendt. Rudolf/Höfling. Wolfram/Karpen. Ulrich/Oldiges.Martin (Hrsg.), Festschrift für K. H. Friauf zum 65. Geburtstag, in: AöR 123 (1998), S. 326–328.

VI その他 (Sonstiges)

Laudatio für Wolfgang Gitter, in: Andreas Remer (Hrsg.), Sozialversicherung—Quo vadis?, 1998, S. 45–48.

Un jurista europeo nacido en Alemania. Conversación con el Professor Peter Häberle. Por Francisco Balaguer Callejón, in: Anuario de derecho constitucional y parlamentario, Año 1997, N° 9, S. 9–49.

Grußwort, in: Der Staat als Teil und als Ganzes (Seminar zum Gedenken an Werner v. Simson), 1998, S. 19–21 (s. auch Mitherausgebertätigkeit).

Buchanzeige von: Michael Nierhaus (Hrsg.), Kommunale Selbstverwaltung, Europäische und Nationale Aspekte, in: AöR 123 (1998), S. 508–509.

Buchanzeige von: Sebastian Wille, Der Berliner Verfassungsgerichtshof, 1993, in: AöR 123 (1998), S. 655 f.

Ⅷ 共同編集 (Mitherausgebertätigkeit)

Der Staat als Teil und als Ganzes (Seminar zum Gedenken an Werner v. Simson), 1998 (zusammen mit J. Schwarze und W. Graf Vitzthum).

Brücken für die Rechtsvergleichung, FS für H. G. Leser, 1998 (zusammen mit O. Werner u. a.).

1999年

Ⅱ 論文 (Aufsätze)

Pluralismus der Rechtsquellen in Europa—nach Maastricht: Ein Pluralismus von Geschriebenem und Ungeschriebenem vieler Stufen und Räume, von Staatlichem und Transstaatlichem, JöR 47 (1999), S. 79–98.

Verfassungslehre als Kulturwissenschaft am Beispiel von 50 Jahren Grundgesetz, in: Aus Politik und Zeitgeschichte (Beilage zur Wochenzeitung Das Parlament) B 16/99, S. 20–30.

V 書評 (Buchbesprechungen)

Besprechung von: Claus Arndt, Ausgewählte Reden und Schriften aus drei Jahrzehnten, Bd. 3, 1996, in: NJW 1999, S. 1172.

3. 関連邦語文献

以下のヘーベルレ関係邦語文献は、必ずしも網羅的なものではないが、ここに挙げられている邦語文献をみても、わが国におけるヘーベルレ理論の紹介・受容がいかに広範囲に渡っているかは明らかであろう。

*特にヘーベルレに言及している頁は、[] で示す。[] の指示のないものは、論文中でヘーベルレ理論を主たる対象として具体的に検討しているものである。

論文 (Aufsätze)

青柳 幸一

「基本権論の変遷」慶應義塾大学大学院法学研究科論文集昭和 52 年度（1977 年）3/17 [11] 頁（青柳幸一『個人の尊重と人間の尊厳』尚学社 1996 年 45 頁以下に再録）

「基本権の多元的機能(1)～(3)」法学研究第 55 卷 4 号（1982 年）22/46 [40] 頁，5 号 27/51 [28] 頁，6 号 49/68 頁（青柳幸一『個人の尊重と人間の尊厳』尚学社 1996 年 76 頁以下に再録）
K. Aoyagi

Die Grundrechtstheorie im Wandel, in: Proceedings of KEIO University Graduate school of Law Studies in Law, Politics and Sociology No. 12, 1977, S. 3-17, (auch in: Respekt vor dem Individuum und Menschenwürde, Shôgakusha 1996, S. 45 ff.).

Mehrdimensional Funktionen der Grundrechte (1)–(3), in: Hôgaku Kenkyu (Journal of Law, Politics and Sociology Bd. 55, Nr. 4 (1982), S. 22-46, Nr. 5, S. 27-51, Nr. 6, S. 49-68, (auch in: Respekt vor dem Individuum und Menschenwürde, Shôgakusha 1996, S. 76 ff.).

赤坂 正浩

「二つの制度的保障論—C. シュミットと P. ヘーベルレー」東北大学法学第 49 卷 1 号（1985 年）82/120 頁

M. Akasaka

Über die zwei Arten der Lehre von der institutionellen Garantie—C. Schmitt und P. Häberle, in: Hôgaku (Journal of Law and Political Science), Bd. 49, Nr. 1 (1985), S. 82-120.

石川 健治

「カール・シュミット『制度体保障』論・再考(1)—主権・制度・自由の法のドグマティック—」東京都立大学法学会雑誌第 32 卷 1 号（1991 年）75/104 [76] 頁

K. Ishikawa

„Freiheitsrechte und institutionelle Garantien“ ernst genommen (1)—Eine Studie über Carl Schmitt'sche Rechtsdogmatik und ihre Rezeption in Japan, in: Tokyo Metropolitan University Journal of Law and Politics, Bd. 32, Nr. 1 (1991), S. 75-104.

石川 敏行

「担い手たちから見たドイツ公法学の 70 年—ドイツ国法学者協会とその周辺—」法学新報第 96 卷 11・12 号（1990 年）3/84 [58, 73, 76] 頁

T. Ishikawa

Zur siebenzigjährigen Entwicklung der deutschen Staats und Verwaltungsrechtslehre im Spiegelbild der Vereinigung der Deutschen Staatsrechtslehrer, gleichzeitig zum Anlaß der Emeritierung von Prof. Dr. Kiminobu Hashimoto, in: Hôgaku Shimpô (Chuo Law Review),

Bd. 96, Nr. 11・12 (1990) S. 3-84.

石村 修

「基本権の体系における生きる権利の意味」法学新報第96巻11・12号（1990年）85/107
[106] 頁

「カール・シュミットにおける自由権」専修法学論集第55・56合併号（1992年）133/181
[146] 頁

O. Ishimura

Die rechtliche Bedeutung des Lebensrechts im Grundrechtskatalog, in: Hôgaku Shimpô (Chuo Law Review), Bd. 96, Nr. 11. 12 (1990) S. 85-107.

Das Freiheitsrecht in Carl Schmitt, in: Senshu Hôgaku Ronshu (The Journal of Law and Political Science), No. 55・56, 1992, S. 133-181.

井上 典之

「いわゆる『人間の尊厳』について—その具体的規範内容と現代的課題についての概観—」阪大法学第43巻2・3号（1993年）617/636 [618, 622] 頁

N. Inoue

Überblick über den normativen Inhalt und die heutigen Aufgaben der Menschenwürde, in: Osaka Law Review (Handai Hogaku), Vol. 43, No. 2・3 (1993), S. 617-636.

内野 正幸

『憲法解釈の論理と体系』日本評論社1991年161/181 [163] 頁

M. Uchino

Die Logik und das System der Verfassungsinterpretation, Nipponhyôronsha, 1991, S. 163.

菟原 明

『変革期の基本権論』尚学社1991年140頁

A. Ubara

Grundrechtstheorie im Wandel, Shôgakusha 1991, S. 140.

遠藤 博也

『計画行政法』学陽書房1976年36, 48, 95, 160頁

H. Endo

Das Recht der Planungsverwaltung, Gakuyô Shôbô 1974, S. 36, 48, 95, 160.

角松 生史

『『民間化』の法律学—西ドイツ Privatisierung 論を素材として—』国家学会雑誌第102巻11・12号（1990年）69/127 [85] 頁

「憲法上の所有権？—ドイツ連邦憲法裁判所の所有権観・砂利採取決定以後—」社会科学研究第45巻6号（1994年）1/64 [18, 39] 頁

『『古典的収用』における『公共性』の法的構造—1874年プロイセン土地収用法における『所有権』と『公共の福祉』（一）』社会科学研究第46巻6号（1995年）1/82 [8] 頁

N. Kadomatsu

Rechtsfragen der „Privatisierung“: Diskussionen in der Bundesrepublik Deutschland, in: Kokka Gakkai Zasshi (Journal of the Association of Political and Social Sciences) Bd. 102, Nr. 11・12 (1990), S. 69-127.

Der Verfassungsrechtliche Begriff des Eigentums?—Zur bundesverfassungsgerichtlichen Konzeption der Eigentumsgarantie, in: The Journal of Social Science Vol. 45, No. 6 (1994) S. 1-64.

Der Begriff des öffentlichen Interesse in der klassischen Enteignung—Eine Analyse von preußischen Enteignungsgesetz von 1874, in: The Journal of Social Science Vol. 46, No. 6 (1995), S. 1-82.

柏崎 敏義

「基本権の中の『制度』—P. ヘーベルレの理解を中心に—」明大大学院第 21 卷 1 号（1983 年）37/50 頁

T. Kashiwazaki

„Institute“ in der Grundrechte—Zum institutionellen Grundrechtverständnis von Peter Häberle, in: Memoirs of the Graduate School Meiji University, Bd. 21, Nr. 1 (1983), S. 37-50.

川又 伸彦

「ドイツ連邦憲法裁判所の性格と裁判官像—連邦憲法裁判所法第 3 条第 2 項をめぐる—」法学新報第 98 卷 9・10 号（1992 年）137/162 [138, 160] 頁

N. Kawamata

Das Ideale Richterbild des Bundesverfassungsgerichts — um Art. 3 Abs. 2 BverfGG, in: Hôgaku Shinpô (Chuo Law Review), Bd. 98, Nr. 9・10 (1992) S. 137-162.

栗城 壽夫

「憲法におけるコンセンサス(1)~(5)」法学雑誌第 28 卷 1 号（1981 年）1/42 [7] 頁, 第 2 号 1/19 頁, 第 30 卷 3/4 号（1984 年）128/160 頁, 第 31 卷 3/4 号（1985 年）113/153 [118] 頁, 第 32 卷 3 号（1986 年）1/27 [24] 頁

「西ドイツ公法理論の変遷」公法研究第 38 号（1976 年）76/111 [78, 81, 88, 100, 105] 頁

「契約としての憲法」法学セミナー 26 卷 8 号（1982 年）22/29 頁

『憲法と裁判—現代憲法体系 11』（樋口陽一と共著）小林直樹監修, 法律文化社 1988 年 127/360 [136, 140, 144, 146, 172] 頁

「憲法と財産権」公法研究第 51 号（1989 年）63/89 頁

「ペーター・ヘーベルレ/ベルント・ネニンガー/西浦公訳・多様な法学的文献ジャンルの総合としての憲法論」解説, ジュリスト第 976 号（1991 年）66 頁

「立憲主義と国家主権」法律時報第 47 卷 12 号（1995 年）71/79 [79] 頁

H. Kuriki

Der Konsensus in der Verfassung (1)~(5), in: Hôgaku Zasshi (Journal of Law and Politics of Osaka City University), Bd. 28, Nr. 1 (1981), S. 1-42, Nr. 2, S. 1-19, Bd. 30, Nr. 3・4 (1984), S. 128-160, Bd. 31, Nr. 3・4 (1985), S. 113-153, Bd. 32, Nr. 3 (1986), S. 1-27.

Die Wandlung der deutschen Staatsrechtslehre, in: Kôhōkenkyu (Public Law Review),

Nr. 38 (1976), S. 76-111.

Verfassung als Vertrag, in: Hôgakuseminar, Bd. 26, Nr. 8 (1982) S. 22-29.

Verfassungsgerichtsbarkeit, in: Y. Higuchi/H. Kuriki, Verfassung und Rechtsprechung, Hôritsubunkasha 1988, S. 127-360.

Die Verfassung und das Eigentum, in: Kôhōkenkyu (Public Law Review), Nr. 51 (1989), S. 63-89.

Die Bemerkung über Peter Häberle, Verfassungslehre im Kraftfeld der rechtswissenschaftlichen Literaturgattungen: zehn Arbeitsthesen, in: Jurist Nr. 976 (1991), S. 66.

Das Konstitutionalismus und die Staatssouveränität, in: The Hôritsu Jiho, Vol. 47, No. 12 (1995), S. 71-79.

〔藤 達朗

「憲法学における『国家』と『社会』—K. ヘッセの『共同体』概念とその問題性」法学新報第91巻8・9・10号（1985年）227/321頁

T. Kudo

„Staat“ und „Gesellschaft“ in der Verfassungslehre — Der Begriff des „Gemeinwesen“ bei Konrad Hesse und seine Problematik, in: Hôgaku Shimpô (Chuo Law Review), Bd. 91, Nr. 8・9・10 (1985), S. 227-321.

小山 剛

『基本権保障の法理』成文堂 1998年 195, 292, 302頁

「基本権の機能の拡充の可能性—ドイツにおける議論を素材として—」慶応義塾大学大学院法学研究科論文集第25号（1987年）217/236 [227]頁

「制度的基本権理解, その後」ジュリスト第1089号（1990年）65/69頁以下

「契約自由と基本権」名城法学第45巻2号（1995年）57/89 [67]頁

G. Koyama

Die Lehre von der grundrechtlichen Schutzpflichten, Seibundo, 1998, S. 195, 292, 302.

Eine Betrachtung über die Möglichkeiten der Funktionsverweiterung der Grundrechte am anhand der Diskussion in Deutschland, in: Proceeding of Keio University Graduate School of Law, Studies in Law and Politics, Nr. 25 (1987), S. 217-236.

Die institutionelle Grundrechtstheorie aus heutiger Sicht, in: Jurist Nr. 1089 (1990), S. 65-69.

Vertragsfreiheit als Grundrecht, in: Meijo Hogaku (Meijo Law Review), Vol. 45, No. 2 (1995), S. 57-89.

齐藤 孝

「基本権の制度的保障—ドイツに於ける学説を手掛りとして」法と秩序第13巻3号（1983年）43/48頁

T. Saito

Institutionelle Garantien der Grundrechte — um die Diskussion in der BRD —, in: Recht und Ordnung, Bd. 13, Nr. 3 (1983), S. 43-48.

笹田 栄司

「基本権の実効的保護—西独基本法 19 条 4 項の解釈論を手がかりとして—(1)~(3)」法政研究第 53 卷 2 号 (1987 年) 85/140 [120, 134] 頁, 第 3 号 75/104 頁, 第 4 号 123/189 [131] 頁 (『実効的基本権保障論』信山社 1993 年 186 頁以下に再録)

E. Sasada

Effective Protection of Fundamental Rights: With Special Reference to Interpretation of Art. 19, para. 4 of the Bonn Basic Law (1)~(3), in: Hōsei Kenkyū (Journal of Law and Politics), Bd. 53, Nr. 2 (1987), S. 85-140, Nr. 3, S. 75-104, Nr. 4, S. 123-189 (auch in: Theorie des effektiven Grundrechtsschutzes, Shinzansha, 1993 186 ff.).

笹川 紀勝

「信仰の自由と政教分離の関係」ジュリスト第 771 号 (1982 年) 31/40 [32] 頁

N. Sasagawa

Das Verhältnis zwischen die Glaubensfreiheit und die Trennung von Staat und Religion. in: Jurist Nr. 771 (1982), S. 31-40.

佐藤 立夫

「戦後三十年の西ドイツ公法学界の展望(上)(中)(下)」早稲田政治経済学雑誌第 250・251 号 (1977 年) 1/28 頁, 第 255 号 (1978 年) 1/19 頁, 第 256・257 号 (1979 年) 1/18 頁 (『現代ドイツ公法学を築いた碩学たち』早稲田大学比較法研究所 1982 年 310/367 [323] 頁に再録)

R. Satou

Development of Public Law Society in West Germany during 30 years after the 2nd World War (1)~(3), in: Waseda Journal of Political Science and Economics, Nr. 250・251 (1977), S. 1-28, Nr. 255 (1978), S. 1-19, Nr. 256・257 (1979), S. 1-18. (auch in: Vorbilder von modernen deutschen Staats- und Verwaltungswissenschaft, Institute of Comparative Law, Waseda University 1982, 5. 310-367.).

澤野 義一

「戦後ドイツ国法学における主権論—ネガティブ (negativ) な主権論の動向—」龍谷法学第 15 卷 2 号 (1982 年) 22/57 [37] 頁

Y. Sawano

Souveränitätstheorien im deutschen Staatsrecht nach dem zweiten Krieg — Eine Richtung der negativen Souveränitätstheorien, in: Ryukoku Hōgaku (Ryukoku Law Review), Bd. 15, Nr. 2 (1982), S. 22-57.

篠原 巖

「憲法解釈方法論の理論的枠組について」名古屋大学法政論集第 109 号 (1986 年) 45/63 [51] 頁

I. Sinohara

Zum theoretischen Rahmen der Methodologie der Verfassungsinterpretation, in: Nagoya University Hōsei Ronsyū (Journal of Law and Political Science), Nr. 109 (1986), S. 45-63.

塩津 徹

「社会的法治国家論と基本権理論の再構成」早稲田政治公法研究第8号（1979年）129/142頁

T. Shiozu

Der soziale Rechtsstaat und die Reform der Grundrechtstheorie, in: Waseda Study of Politics and Public Law, Nr. 8 (1979), S. 129-142.

高橋 正俊

「制度保障について」香川法学第7巻3・4号（1988年）227/260 [245]頁

M. Takahashi

Über die institutionelle Garantie, in Kagawahôgaku (Kagawa Law Review), Bd. 7, Nr. 3・4 (1988), S. 227-260.

高見 勝利

「国民と議会(1) — 『国民代表』の理論と歴史に関する一考察 —」国家学会雑誌第92巻3・4号（1979年）1/58 [10]頁

「主権論 — その魔力からの解放について —」月刊法学教室第69号（1986年）16/21 [19]頁（樋口陽一編「憲法の基本問題」有斐閣1988年11/17 [14]頁に再録）

「西ドイツの憲法裁判」芦部信喜編『講座・憲法訴訟第1巻』有斐閣1987年97/144 [99, 108, 138, 139]頁

K. Takami

Zur Theorie und Geschichte der parlamentarischen Repräsentation (1), in: Kokka Gakkai Zassi (Journal of the Association of Political and Social Sciences), Bd. 92, Nr. 3・4 (1979), S. 1-58.

Die Souveränitätstheorie, in: Hôgaku Kyôsitu, Nr. 69 (1986), S. 16-21 (auch in: Grundprobleme des Verfassungsrechts, hrsg. v. Y. Higuchi, Yûhikaku 1988, S. 11-17).

Die Verfassungsgerichtsbarkeit in der BRD, in: Verfassungsgerichtsbarkeit in der Gegenwart, hrsg. v. N. Ashibe, Bd. 1, Yûhikaku 1987, S. 97-144.

恒川 隆生

「憲法裁判における基本権保障の理論の考察(1)~(3) — 基本法第2条1項の解釈について —」名古屋大学法政論集第96号（1983年）371/441 [382]頁，第97号201/249頁，第98号271/311頁

「基本権論としての組織・手続問題 — その系譜に関する若干の検討」沖縄法学第13号（1985年）101/132 [115]頁

T. Tsunekawa

Eine Betrachtung über die Theorie der Grundrechtsgarantie in der Verfassungsgerichtsbarkeit (1)~(3), in: Nagoya University Hôsei Ronsyu (Journal of Law and Political Science), Nr. 96 (1983), S. 371-441, Nr. 97, S. 201-249, Nr. 98, S. 271-311.

Organizations- und Verfassungsproblem als Grundrechtstheorie, in: Okinawa Hôgaku (Journal of the Association of Law, Okinawa Kokusai University), Nr. 13 (1985), S. 101-132.

竹内 俊子

「ドイツにおける文化の自由保障」神長勲（代表）『室井力先生還暦記念論集—現代行政法の理論』法律文化社 1991年 242/267 [252] 頁

T. Takeuchi

Garantie der Kulturfreiheit in der BRD, in: Theorie des modernen Verwaltungsrecht, Festschrift für Prof. T. Muroi zum 60. Geb., hrsg. v. I. Kaminaga u. a., Hôritubunkasha 1991, S. 242-267.

手塚 和男

「スメント及びドイツ国法学における憲法変遷論」新正幸・鈴木法日児編『憲法制定と変動の法理—菅野喜八郎教授還暦記念論文集』木鐸社 1991年, 280/305 [297] 頁

K. Tezuka

Die Theorie von Verfassungswandlung in R. Smend und der deutschen Staatsrechtswissenschaft, in: Rechtstheorie in der Verfassungsgesetzgebung und Wandlung. Festschrift für Prof. K. Kanno zum 60. Geb., hrsg. v. M. Atarasi/N. Suzuki, Bokutakusha 1991, S. 280-305.

寺田 友子

「職業教育施設選択の自由権と配分請求権—Numerus clausus 判決」法学雑誌 23 卷 1 号 (1976年) 145/162 [146, 153] 頁

T. Terada

On the „Numerus clausus“ Decision, in: Hôgaku Zasshi (Journal of Law and Politics of Osaka City University), Bd. 23, Nr. 1 (1976), S. 145-162.

戸波 江二

「西ドイツにおける基本権解釈の傾向(1)~(5)」自治研究第 54 卷 7 号 (1979年) 83/95 頁, 第 8 号 91/104 [95] 頁, 第 9 号 67/79 頁, 第 10 号 71/83 頁, 第 11 号 111/124 [111, 116] 頁

「制度的保障の理論について」筑波法政第 7 号 (1984年) 66/112 [84, 89] 頁

K. Tonami

Die neue Tendenz in der Grundrechtsinterpretation in der BRD (1)~(5), in: Jichikenkyu (Archiv für Kommunalwissenschaft), Bd. 54, Nr. 7 (1979), S. 83-95, Nr. 8, S. 91-104, Nr. 9, S. 67-79, Nr. 10, S. 71-83, Nr. 11, S. 111-124.

Über die Theorie der institutionellen Garantien, in: Tsukuba Hôsei (Tsukuba Review of Law and Political Science), Nr. 7 (1984), S. 66-112.

富塚 祥夫

「実体的基本権の手続法的機能（上）（下）—西ドイツ基本権論の新局面—」東京都立大学法学会雑誌第 27 卷 1 号 (1986年) 219/250 頁, 第 2 号 (1987年) 181/215 [200] 頁

A. Tomizuka

Die verfahrensrechtliche Funktion der materiellen Grundrechte (1)~(2) —Die neuere Situation der Grundrechtsinterpretation in der Bundesrepublik Deutschland—, in: Tokyo Metropolitan University Journal of Law and Politics, Bd. 27, Nr. 1 (1986), S. 219-250, Nr. 2 (1987), S. 181-215.

中島 茂樹

「ドイツにおける『制度的』基本権理論と『制度的』法思考」神長勲（代表）『室井力先生還暦記念論集—現代行政法の理論』法律文化社 1991 年 203/241 頁

S. Nakajima

Die institutionelle Grundrechtstheorie und institutionelle Rechtsdenken in der BRD, in: Theorie des modernen Verwaltungsrecht. Festschrift für Prof. T. Muroi zum 60. Geb., hrsg. von I. Kaminaga u. a., Hôritubunkasha 1991, S. 203-241.

苗村 辰弥

「議会内『少数派』の地位と権利—『少数派』の自立性と統合性を焦点として—」九大法学第 62 号（1991 年）187/234 [207] 頁

T. Naemura

Rechte und Stellung der parlamentarische Minderheiten, in: Kyudai Hôgaku (Kyudai Law Review), Nr. 62 (1991), S. 187-234.

永田 秀樹

「西ドイツにおける憲法裁判と政治 (1)~(2)」大分大学経済論集第 38 巻 6 号（1987 年）59/86 [68] 頁, 第 39 巻 2 号 81/116 頁

H. Nagata

Verfassungsgerichtsbarkeit und Politik in der Bundesrepublik Deutschland (1)~(2), in: Oita University Economic Review, Bd. 38, Nr. 6 (1987), S. 59-86, Bd. 39, Nr. 2, S. 81-116.

西浦 公

「多元主義的憲法理論の基本的特質」法学雑誌第 30 巻 4・5 号（1984 年）509/528 頁

「スメント—統合理論の問題点とその現代的意義—」小林孝輔編集代表『ドイツ公法の理論—その今日的意義』一粒社 1992 年 132/148 [138] 頁

「P. ヘーベルレの憲法理論」岡山商科大学法経学部創設論文集『現代法学の諸相』1992 年 1/21 頁

「P. ヘーベルレの最近の理論的動向—東欧の憲法変動を中心として—」岡山商科大学法学論叢第 1 号（1993 年）121/128 頁

「基本権の保障領域の決定権をめぐる」岡山商科大学法学論叢第 4 号（1996 年）33/50 頁

I. Nishiura

On the Pluralistic Theory of the Constitutional Law and Its fundamental Characteristics, in: Hôgaku Zasshi (Journal of Law and Politics of Osaka City University), Bd. 30, Nr. 4・5 (1984), S. 509-528.

Smend—modere Bedeutung der Integrationstheorie, in T. Kobayashi (Hrsg.), Theorie des öffentlichen Rechts in der BRD, Ichiryusha, 1992, S. 132-148.

Verfassungstheorie von Peter Häberle, in: Die Vielfalt der modernen Rechtstheorie, 1992, S. 1-21.

Das neuerlicher Aufsätze von P. Häberle, Hôgaku Ronsô (The Okayama-Shoka Law Review), No. 1, 1993, S. 121-128.

Wer bestimmt die Schutzbereiche der Grundrechte? in: Hôgaku Ronsô (The Okayama-

Shoka Law Review), No. 4, 1996, S. 33-50.

西原 博史

「基本権的給付請求権と基本権理論—西ドイツ基本権論ノート—」早稲田法学会誌第38巻(1988年)135/195 [137, 140, 149, 168, 188] 頁

「公立学校と良心の自由—西ドイツにおける国家の教育任務・親の教育・子どもと親の良心の自由—(1)~(5)」早稲田社会科学研究所第40号(1990年)195/289 [247] 頁, 第41号87/122頁, 第42号(1991年)149/208頁, 第43号353/382頁, 第44号(1992年)175/289 [184] 頁(『良心の自由—基本的人権としての良心的自律可能性の保障—』成文堂1995年151頁, 278頁以下に再録)

H. Nisihara

Grundrechtliche Leistungsansprüche? —Eine Untersuchung der deutschen Grundrechtslehren, in: Waseda Hôgakukaishi (Waseda Law Journal), Bd. 38 (1988), S. 135-195.

Gewissensfreiheit in der Schule (1)~(5)—Staatlicher Erziehungsauftrag, elterliches Erziehungsrecht und Gewissensfreiheit der Schüler und Eltern in der BRD—, in: The Waseda Journal of Social Science, Nr. 40 (1990), S. 195-289, Nr. 41, S. 87-122, Nr. 42 (1991), 149-208, Nr. 43, S. 353-382, Nr. 44 (1992), S. 175-289 (auch in: Gewissensfreiheit, Seibundô, 1995, S. 151, 278 ff.).

畑尻 剛

「東西ドイツ統一と公法学者—P・ヘーベルレの場合—」法律時報第831号(1995年)70/75頁

「ドイツ統一と公法学者—P.ヘーベルレの場合—」杉原泰雄・清水睦編集代表『憲法の歴史と比較』日本評論社1998年104/116頁

「批判にさらされるドイツの連邦憲法裁判所(上)(下)」ジュリスト第1106号(1996年)74/81 [79] 頁, 第1107号(1997年)79/85頁

T. Hatajiri

P. Häberle—Ein Verfassungsrechtslehrer bei der Deutschen Einheit, in: The Horitsu Jiho, Vol. 67, No. 10 (1995), S. 70-75.

P. Häberle —Ein Verfassungsrechtslehrer bei der Deutschen Einheit, in: Y. Sugihara/M. Simizu (Hrsg.) Verfassungsgeschichte im Vergleich, Nipponhyoronsha, 1998, S. 104-116.

Kritisiertes Bundesverfassungsgericht (1)~(2), in: Jurist Nr. 1106 (1996), S. 74-81, Nr. 1107 (1997) S. 79-85.

服部 高宏

「F. ミュラーの法律学的方法論(1)~(2)—『法学的方法』の再構成—」法学論叢第123巻3号(1988年)45/70 [56] 頁, 第6号49/76頁

T. Hattori

F. Müller „Juristische Methodik“ (1)~(2), in: Hôgaku Ronsô (Kyoto Law Review), Bd. 123, Nr. 3 (1988), S. 45-70, Nr. 6, S. 49-76.

浜田 純一

「プレスの自由の『制度的理解』について (1)」東京大学新聞研究所紀要第 27 号 (1979 年) 23/47 [45] 頁

「制度概念における主観性と客観性—制度と基本権の構造分析序説—」現代憲法研究会『小林直樹先生還暦記念・現代国家と憲法の原理』有斐閣 1983 年 487/528 頁

『メディアの法理』日本評論社 1990 年 20, 158, 122 頁

「憲法・人間・基本権理論」樋口陽一・野中俊彦編集代表『小林直樹先生古稀記念・憲法学の展望』有斐閣 1991 年 127/145 [131, 135, 139] 頁

J. Hamada

On „die institutionelle Auffassung“ of Freedom of the Press in West Germany, in: The Bulletin of the Institute of Journalism University of Tokyo, No. 27 (1979), S. 23-47.

Die Subjektivität und Objektivität im Begriff des Institutes — Einleitung in Struktur-analyse des Institut und Grundrechte, in: Der moderne Staat und Verfassungsprinzip. Festschrift für Prof. N. Kobayashi, zum 60. Geb., Yûhikaku 1983, S. 487-528.

Rechtstheorie vom Media, Nipponhyoronsha 1990, S. 20, 158, 162.

Verfassung, Menschen und Grundrechtstheorie, in: Überblick über die Verfassungsrechtslehre. Festschrift für Prof. N. Kobayashi zum 70. Geb., hrsg. v. Y. Higuchi/T. Nonaka, Yûhikaku 1991, S.127-145.

樋口 陽一

『近代憲法学にとっての論理と価値』日本評論社 1994 年 218 頁以下

「違憲審査をする裁判官の正統性と法解釈」ジュリスト第 1037 号 (1994 年) 133/139 [134] 頁
Y. Higuchi

Die Logik und der Wert in der Verfassungsrechtstheorie der Neuzeit, Nipponhyoronsha, 1994, S. 218 f.

Die Legitimität der Richter beim Richterlichesprüfungsrecht, in: Jurist Nr. 1037 (1994), S. 133-139.

日野田浩行

『『憲法原理としての公開』序説』九大法学第 56 号 (1988 年) 179/226 [193] 頁

H. Hinoda

Öffentlichkeit als Verfassungsprinzip, in: Kyudai Hôgaku (Kyudai Law Review), Nr. 56 (1988), S. 179-226.

広渡 清吾

「西ドイツにおける『国家』—『社会国家』論の射程と限界—」金原左門他編『講座・現代資本主義国家第 4 巻』大月書店 1990 年 175/212 [197] 頁

S. Hirowatari

„Staat“ in der BRD—Die Tragweite und Grenzen der „Rechtsstaats“ theorie, in: Der moderne kapitalistische Staat, Bd. 4, hrsg. v. S. Kinbara u. a., Ôtsukishoten 1990, S. 175-212.

藤田 宙靖

「E. W. ベッケンフェルデの国家と社会の二元的対立論(1)~(2) —現代西ドイツ公法学研究ノート—」法学第40巻3号（1976年）32/64頁，第41巻2号（1977年）25/52頁

「法現象の動態的考察の要請と現代公法学—R. スメントについての覚え書き—」岡田与好・広中俊雄・樋口陽一編『世良教授還暦記念（下）社会科学と諸思想の展開』創文社1977年，423/463 [423] 頁（『行政法学の思考形式』木鐸社1978年360/399 [363] 頁に再録）

T. Fujita

Die Theorie der Unterscheidung von Staat und Gesellschaft in der Gegenwart (1)~(2) — Eine Überblick auf die Staat- und Verfassungsrechtslehre in der BRD, in: *Hôgaku (Journal of Law and Political Science)*, Bd. 40, Nr. 3 (1976), S. 32-64, Bd. 41, Nr. 2 (1997), S. 25-52.

Anspruch auf die dynamische Betrachtung über Rechterscheinungen in heutigen Staats- und Verwaltungslehre, in: *Sozialwissenschaften und Entwicklung der Ideen. Festschrift für Prof. Y. Sera zum 60. Geb.*, Sôbunsha 1977, S. 423-463 (auch in: *Gedankenform der Verwaltungsrechtslehre*, Bokutakusha, 1978, S. 360-399).

前田 徹生

「社会権概念の再検討(1)~(2)」上智法学論集第22巻1号（1978年）149/198 [174] 頁，第2号（1979年）169/210 頁

T. Maeda

Zur Problematik des Begriff der sozialen Grundrechte (1)~(2), in: *Sophia Law Review*, Bd. 22, Nr. 1 (1978), S. 149-198, Nr. 2 (1979), S. 169-210.

前原 清隆

「旧東ドイツ地域の五州における教育憲法思想」名古屋大学法政論集第149号（1993年）331/350 [332] 頁

K. Maehara

Bildungsverfassungsrecht in den neuen Ländern der Bundesrepublik Deutschland, in: *Nagoya University Hôsei Ronshu (Journal of Law and Political Science)*, Nr. 149 (1993), S. 331-350.

三並 敏克

「現代民主主義国家における自由 (1)~(4)」京都学園大学論集第11巻1号（1982年）112/137頁，第12巻3号（1984年）103/134頁，第14巻3号（1986年）112/154頁，第15巻2号60/101頁

「基本権の本質ないし基本思想の捉え方 (1)」京都学園大学論集第16巻3号（1987年）97/137 [120] 頁

T. Minami

Die Freiheit im demokratischen Staat der Gegenwart (1)~(4), in: *Kyotogakuen Daigaku Ronshû (Kyotogakuendaigaku University Review)*, Bd. 11, Nr. 1 (1982), S. 112-137, Bd. 12, Nr. 3 (1984), S. 103-134, Bd. 14, Nr. 3 (1986), S. 112-154, Bd. 15, Nr. 2, S. 60-101.

Wie erfaßt man das Wesen oder den Grundgedenke der Grundrechte? (1), in: *Kyotogakuen Daigaku Ronshû (Kyotogakuendaigaku University Review)*, Bd. 16, Nr. 3 (1987), S.

97-137.

三宅 雄彦

「ドイツにおける憲法理論の概念—憲法理論の成立，展開，任務，特徴—」早稲田法学会誌第47巻（1997年）253/307頁 [296頁以下，299頁]

Y. Miyake

Der Begriff der Verfassungstheorie in Deutschland — Die Entstehung, Entwicklung, Aufgaben und Eigenarten der Verfassungstheorie, in: Waseda Hôgakukaishi (Waseda Law Journal), Vol. 47 (1997), S. 257-307.

棟居 快行

「財産権保障の現代的意義」ジュリスト第884号（1987年）219/227 [227]頁（『人権の新構成』信山社1992年248, 255頁に再録）

T. Munesue

Die moderne Bedeutung von der Eigentumsgarantie, in: Jurist Nr. 884 (1987), S. 219-227, (auch in: Rekonstruktion der Menschenrechte, Shinzansha, 1992, S. 248, 255).

村上 武則

「給付国家と給付行政序説」広島大学政経論叢第25巻6号（1971年）173頁/206 [175, 205]頁

「Teilhabe (配分参与) について」広岡隆，高田敏，室井力編『杉村敏正先生還暦記念・現代行政法と法の支配』有斐閣1978年73/96 [88]頁

「西ドイツにおける給付行政の法関係論について」伊藤満先生喜寿記念論文集編集委員会『伊藤満先生喜寿記念・比較公法学の諸問題』八千代出版1990年159/184 [163]頁

T. Murakami

Einleitung. Leistungsstaat und Leistungsverwaltung, in: Seikei Ronsô (Journal of Political Science and Economics of Hiroshima University), Bd. 25, Nr. 6 (1971), S. 173-206.

Über die Teilhabe, in: Das moderne Verwaltungsrecht und Rule of Law. Festschrift für Prof. T. Sugimura zum 60. Geb., Yûhikaku 1978, S. 73-96.

Über die Rechtsverhältnisstheorie bei der Leistungsverwaltung in der BRD, in: Theorien des öffentlichen Rechts im Vergleich. Festschrift für Prof. M. Ito zum 77. Geb., Yachiyo shuppan 1990, S. 159-184.

毛利 透

「憲法パトリオティズム—国家の基礎づけをめぐって」筑波法政第17号（1994年）157/205 [171/179]頁

「主権の復権？—インゲボルク・マウスの国法理論管見」筑波法政第18号（1995年）355/387 [363]頁

T. Mori

Verfassungspatriotismus und Verfassungslehre, in: Tsukuba Hôsei (Tsukuba Review of Law and Political Science) No. 17 (1994), S. 171-179.

Rehabilitierung der Souveränität? in: Tsukuba Hôsei (Tsukuba Review of Law and

Political Science) No. 18 (1995), S. 355-387.

本 秀紀

「西ドイツにおける政党への国庫補助の法理 (1)~(2)」名古屋大学法政論集第 134 号 (1990 年) 267/308 [286] 頁, 第 135 号 (1991 年) 387/424 [389, 409] 頁

H. Moto

Rechtstheorie der staatlichen Parteifinanzierung in der BRD (1)~(2), in: Nagoya University Hōsei Ronsyu (Journal of Law and Political Science), Nr. 134 (1990), S. 267-308, Nr. 135 (1991), S. 387-424.

森 英樹

「西独における基本権論の動向」長谷川正安編『現代人権論—公法学研究 1』法律文化社 1982 年 157/174 [161] 頁

H. Mori

Trends in the Theories of „Grundrecht“ in the Federal Republic of Germany, in: M. Hasegawa (Hrsg.), Contemporary Problems of Public Law, Vol. 1, Some Problems of Contemporary Humann Rights, Hōritsubunkasha, 1982, S. 157-174.

山下 健次

「人権と制度的保障の理論」小嶋和司編『憲法の争点 (旧版)』1978 年 50/53 [53] 頁

K. Yamashita

Menschenrechte und die Theorie der institutionellen Garantie, in: K. Kojima (Hrsg.) Streitprobleme des Verfassungsrechts, Yūhikaku (1987), S. 50-53.

横田 守弘

「国家の教育任務と『個人』—十字架判決に対する一つの批判を素材にして—」米沢広一・松井茂記・土井真一刊行代表『佐藤幸治先生還暦記念・現代立憲主義と司法権』青林書院 1998 年 477/514 頁 [496 頁以下]

M. Yokota

Die staatliche Aufgabe über die Erziehung, in: K. Yonezawa/S. Matui/S. Doi (Hrsg.), Der moderne Konstitutionalismus und die rechtsprechende Gewalt. Festschrift für Prof. K. Sato zum 60. Geb., Seirinshorin, 1998, S. 477-514.

渡辺 康行

『憲法』と『憲法理論』の対話 (一)~(四)—戦後西ドイツにおける憲法解釈方法論史研究—」国家学会雑誌 103 卷 1・2 号 (1990 年) 1/38 頁, 第 105 卷 1・2 号 (1992 年) 90/137 頁, 第 111 卷 5・6 号 (1998 年) 100/147 [128/147] 頁, 第 112 卷 7・8 号

「ドイツ連邦憲法裁判所の憲法解釈方法論」新正幸・鈴木法日児編『憲法制定と変動の法理—菅野喜一郎教授還暦記念論文集』木鐸社 1991 年 317/546 [533, 535] 頁

「国民主権」ジュリスト第 1089 号 (1996 年) 95/100 頁 [95 頁以下]

「多数だけでは決めない仕組み」樋口陽一編『ホーンブック憲法』北樹出版 1993 年 266/315 頁 [309 頁以下]

Y. Watanabe

Der Dialog zwischen der Verfassung und der Verfassungstheorie: Eine Untersuchung über die Geschichte der Methode der Verfassungsinterpretation in BRD (1)~(4), in: Kokka Gakkai Zassi (Journal of the Association of Political and Social Sciences), Bd. 103, Nr. 1 • 2 (1990), S. 1-38, Bd. 105, Nr. 1 • 2 (1992), S. 90-137, Bd. 111, Nr. 5 • 6 (1998), S. 100-147, Bd. 112, Nr. 7 • 8.

Die Methodologie der Verfassungsinterpretation durch das Bundesverfassungsgerichts in der BRD, in: Rechtstheorie in der Verfassungsgesetzgebung und Wandlung. Festschrift für Prof. K. Kanno, zu 60. Geb., hrsg. v. M. Atarasi/N. Suzuki, Bokutakusha 1991, S. 483-528.

Die Volkssouveränität, in: Jurist Nr. 1089 (1996), S. 95-100.

Der Minderheitschutz in der Demokratie, in: Y. Higuchi (Hrsg.), Horn Book — Verfassungsrecht, Hokujiyushuppan, 1993, S. 266-315.

翻訳 (Übersetzungen)

井上 典之訳

「立憲国家の文献ジャンルとしてのユートピア」大阪学院大学法学研究第 19 卷 1 • 2 号 (1993 年) 57/82 頁

『基本権論』信山社 1993 年

「立憲国家における真実の問題 (一)~(二・完)」神戸法学雑誌第 47 卷 4 号 (1998 年) 763/820 頁, 48 卷 1 号 125/182 頁

N. Inoue

Peter Häberle, Utopien als Literaturgattung des Verfassungsstaates (1987), in: Hôgaku Kenkyu (Osakagakuin Law Review), Vol. 19, No. 1 • 2 (1993), S. 57-82.

Peter Häberle, Grundrechte im Leistungsstaat (1972), Sinzansha, 1993.

Peter Häberle, Wahrheitsprobleme im Verfassungsstaat, Kobe Hôgaku Zassi (Kobe Law Journal) Vol. 47, No. 4, S. 763-820, Vol. 48, No. 1 (1998), S. 125-182.

小林 武訳

「ケルツ＝ミュラーのスイス憲法『私』案 (1984 年)」南山法学第 10 卷 3 号 (1987 年) 67/98 頁

T. Kobayashi
Peter Häberle, Der 《private》 Verfassungsentwurf Kôlz/Müller (1984), in: Nanzan Hôgaku (Nanzan Law Review), Bd. 10, Nr. 3 (1987), S. 67-98.

ベルント・ネニンガー, 西浦 公訳

「多様な法学的文献ジャンルの総合としての憲法論—10 個のテーゼ」ジュリスト第 976 号 (1991 年) 58/68 頁

B. Nenninger/K. Nishiura

Peter Häberle, Verfassungslehre im Kraftfeld der rechtswissenschaftlichen Literaturgattungen: zehn Arbeitsthesen, in: Jurist Nr. 976 (1991), S. 58-68.

畑尻 剛訳

「憲法裁判の基本問題」城西経済学会雑誌第 25 卷 2・3 号（1992 年）125/146 頁

T. Hatajiri

Peter Häberle, Grundprobleme der Verfassungsgerichtsbarkeit, in: Jōsai Keizaigakkaishi (Jōsai Journal of Economics), Bd. 25, Nr. 2・3 (1992), S. 125-146.